

1 移動系通信

(1) 移動系通信

- **移動系通信の契約数は2億1,282万**（前期比+0.9%、前年同期比+4.5%：単純合算では2億9,768万）、**携帯電話の契約数は2億1,268万**（前期比+1.0%、前年同期比+4.6%）となっている。
- **3.9-4世代携帯電話（LTE）の契約数（単純合算）は1億2,519万**（前期比▲1.7%、前年同期比▲7.2%、携帯電話の契約数に占める割合は58.9%）、**5世代携帯電話の契約数（単純合算）は7,476万**（前期比+7.1%、前年同期比+44.8%）となっている。**BWAの契約数（単純合算）は8,494万**（前期比+0.8%、前年同期比+5.7%）となっている。
- **移動系通信の契約数における事業者別シェアは、NTTドコモが35.5%**（前期比▲0.2ポイント、前年同期比▲0.9ポイント、MVNOへの提供に係るものを含めると41.3%）、**KDDIグループが27.0%**（前期比±0ポイント、前年同期比+0.1ポイント、MVNOへの提供に係るものを含めると30.6%）、**ソフトバンクが20.7%**（前期比▲0.1ポイント、前年同期比▲0.4ポイント、MVNOへの提供に係るものを含めると25.8%）、**楽天モバイルが2.3%**（前期比+0.1ポイント、前年同期比▲0.1ポイント）、**MVNOが14.5%**（前期比+0.2ポイント、前年同期比+1.3ポイント）となっている。

注1：数値は表示単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計や、図表内の数値から計算される増減率と表示されている増減率等については一致しない場合がある。以下同じ。

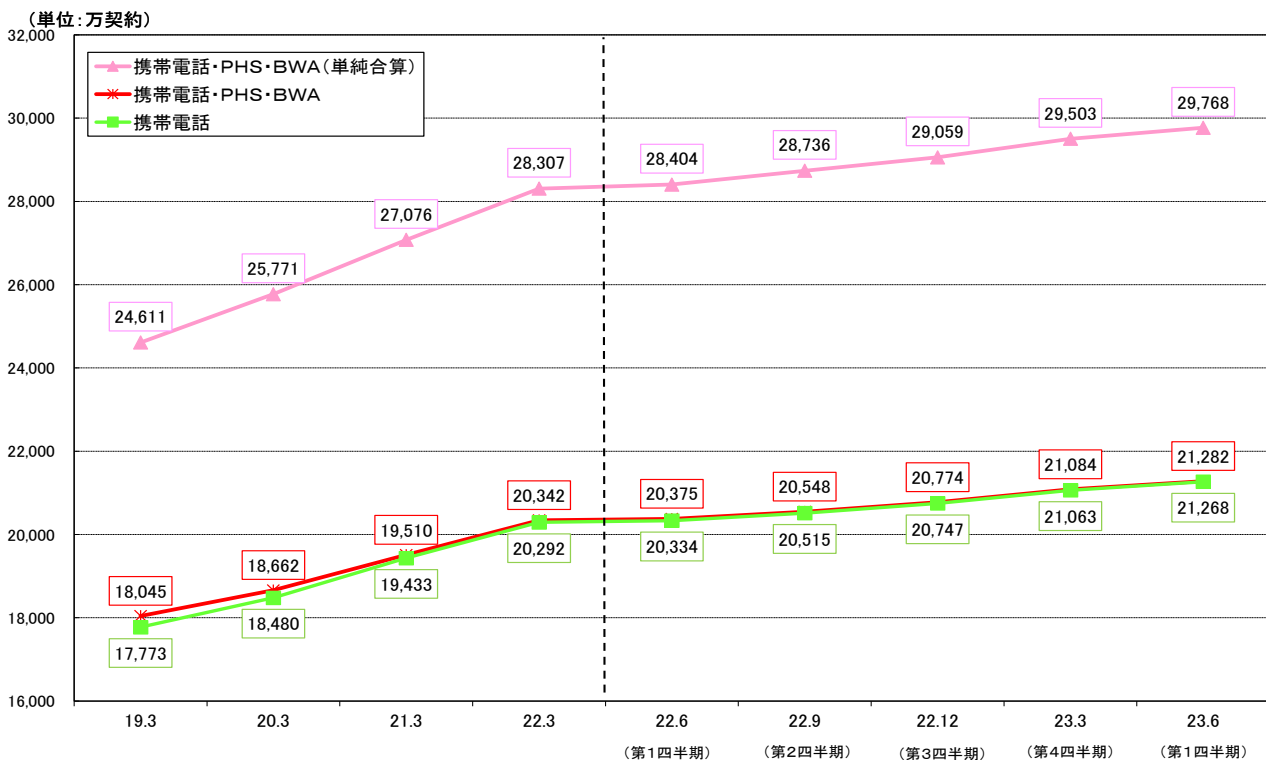
注2：移動系通信の契約数は、携帯電話、PHS及びBWAの合計。PHSについては、2022年度第4四半期まで。以下同じ。

注3：移動系通信の契約数については、特段の記載がない限り、グループ内取引調整後の数値。（「単純合算」と記載するものは、グループ内取引調整をしない数値。）

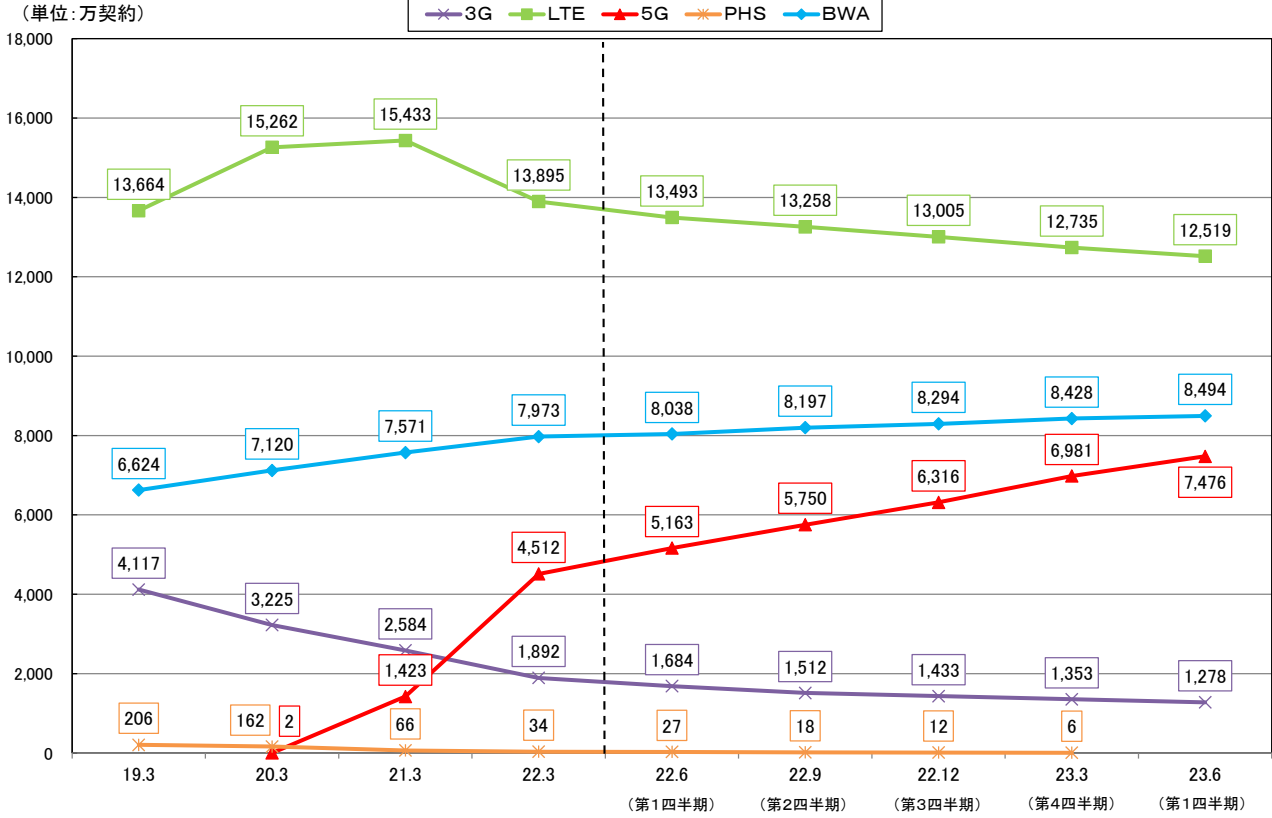
注4：携帯電話の契約数は、3世代携帯電話、3.9-4世代携帯電話及び5世代携帯電話の合計。

注5：楽天モバイルのシェアは、MNOとしてのシェア。

移動系通信の契約数の推移

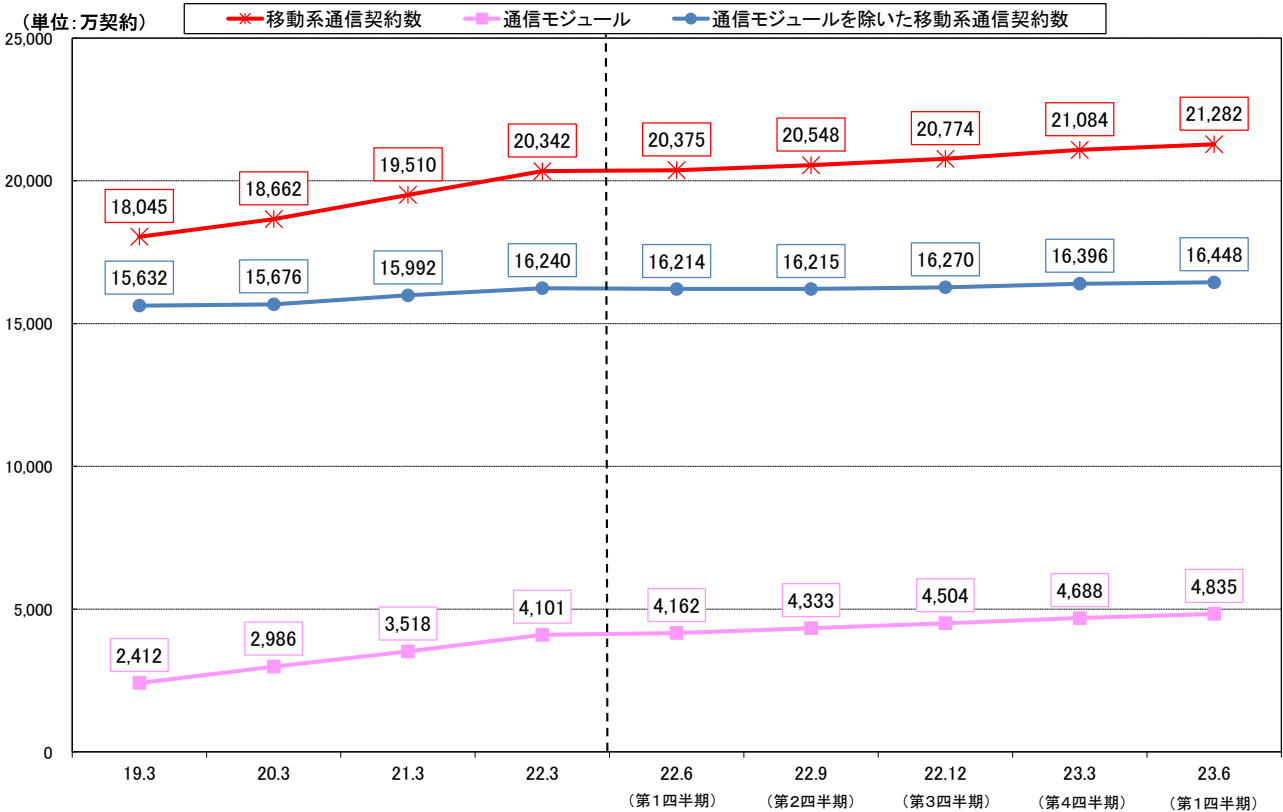


3G・LTE・5G・PHS・BWAの各契約数の推移（単純合算）

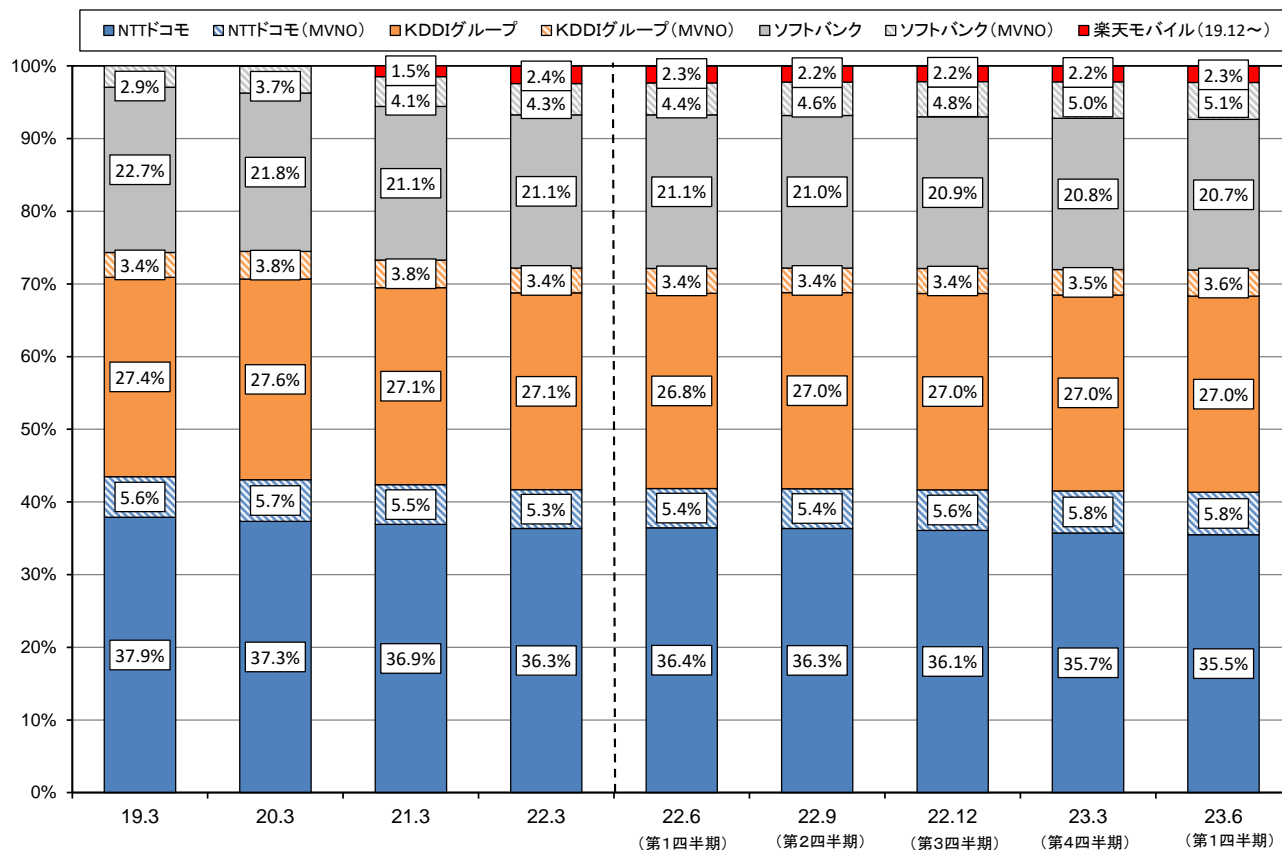


注1：LTEの契約数には、3G及びLTEのどちらも利用可能である携帯電話の契約数が含まれる。
 注2：5Gの契約数には、LTE及び5Gのどちらも利用可能である携帯電話の契約数が含まれる。

【参考】通信モジュール等の契約数の推移



移動系通信の契約数における事業者別シェアの推移



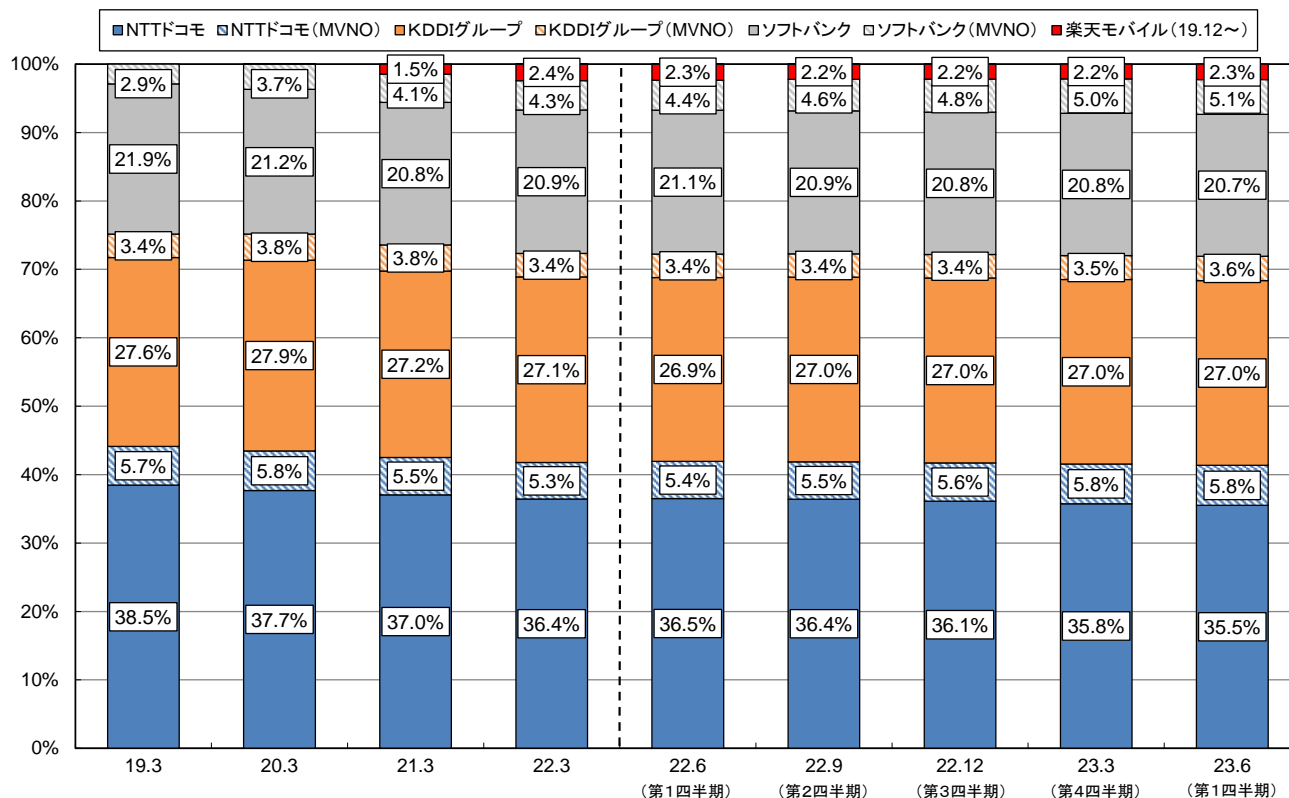
注1：MNOが、同じグループに属する他のMNOの提供する移動通信サービスを利用して提供するものを除く。以下このページにおいて同じ。

注2：「KDDIグループ」には、KDDI、沖縄セルラー及びUQコミュニケーションズが含まれる。

注3：MVNOのシェアを提供元のMNOグループごとに合算し、当該MNOグループ名の後に「(MVNO)」と付記して示している。以下このページにおいて同じ。

注4：楽天モバイルが提供するMVNOサービスは、「NTTドコモ(MVNO)」及び「KDDIグループ(MVNO)」に含まれる。以下このページにおいて同じ。

携帯電話の契約数における事業者別シェアの推移



注：「KDDIグループ」には、KDDI、沖縄セルラー及びUQコミュニケーションズ（2020年度第2四半期まで）が含まれる。

(2) MVNO ((1)の内数)

- MVNOサービス^{※1}の契約数 (移動系通信の契約数の内数) は 3,091 万 (前期比+2.5%、前年同期比+14.8%) となっている。
- 契約数が3万以上のMVNOサービスの区分別契約数は、SIMカード型が 1,571 万 (前期比+0.4%、前年同期比+5.0%)、通信モジュールが 1,091 万 (前期比+4.3%、前年同期比+17.6%) となっている。
- SIMカード型の契約数における事業者別シェア^{※2}は、インターネットイニシアティブが 20.0% (前期比+0.2ポイント)、NTTレゾナントが 12.2% (前期比+0.3ポイント)、オプテージが 9.0% (前期比±0ポイント)、富士通が 5.6% (前期比▲0.1ポイント)、イオンリテールが 4.7% (前期比±0ポイント) となっている。
- 一次MVNO^{※3}サービスの事業者数は 804 (前期比+13、前年同期比+98) ^{※4}、二次以降のMVNO^{※5}サービスの事業者数は 1,012 (前期比+19、前年同期比+51) となっている。

※1：MNOが、同じグループに属する他のMNOの提供する移動通信サービスを利用して提供するものを除く。特段の記載がない限り、以下この「(2) MVNO」において同じ。

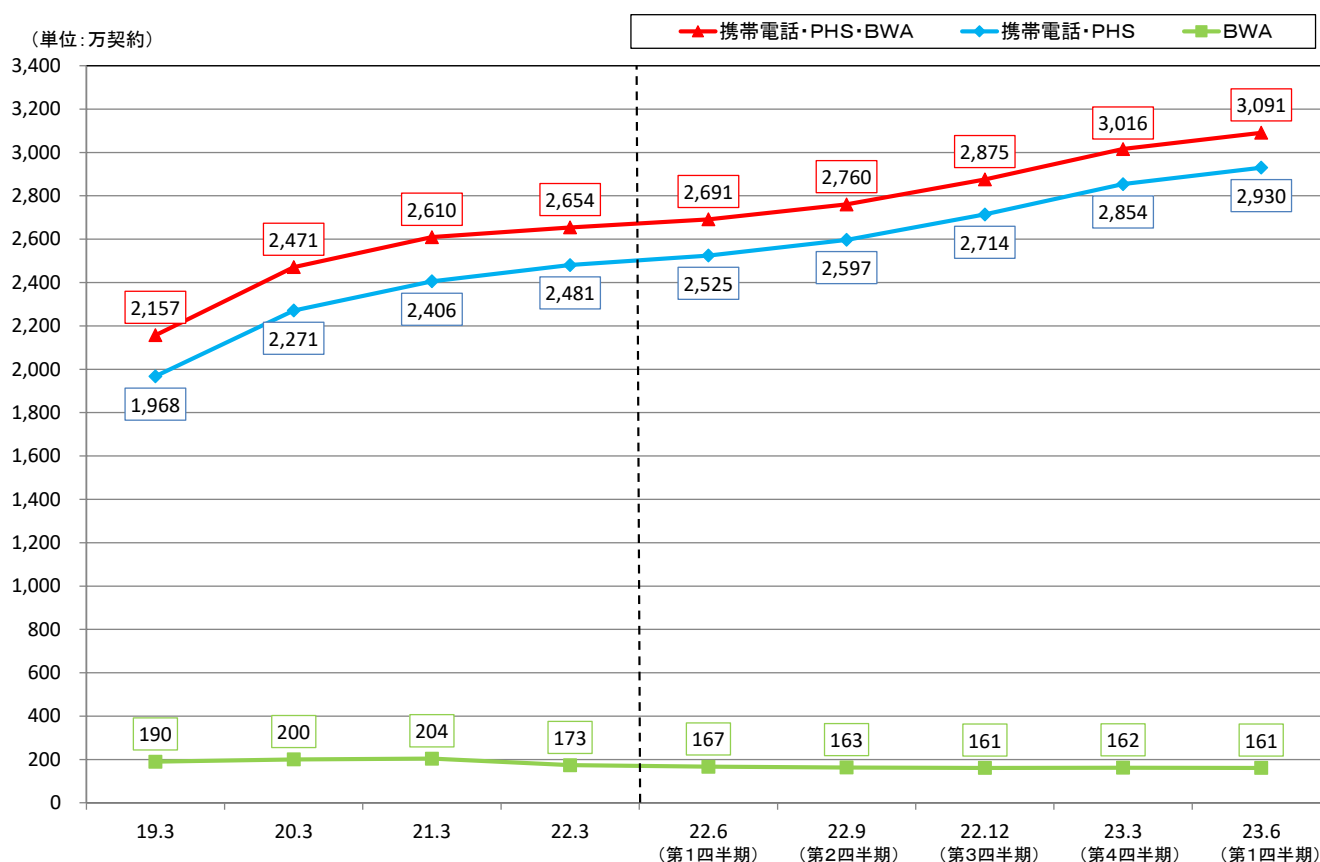
※2：MNOのグループ内取引による契約数の重複を排除している。

※3：MNOから直接回線の提供を受けるMVNO。以下この「(2) MVNO」において同じ。

※4：このほか、MNOであり、かつ、同じグループに属する他のMNOの提供する移動通信サービスを利用してMVNOサービスを提供する者が4者存在 (KDDI、沖縄セルラー、UQコミュニケーションズ及びソフトバンク)。

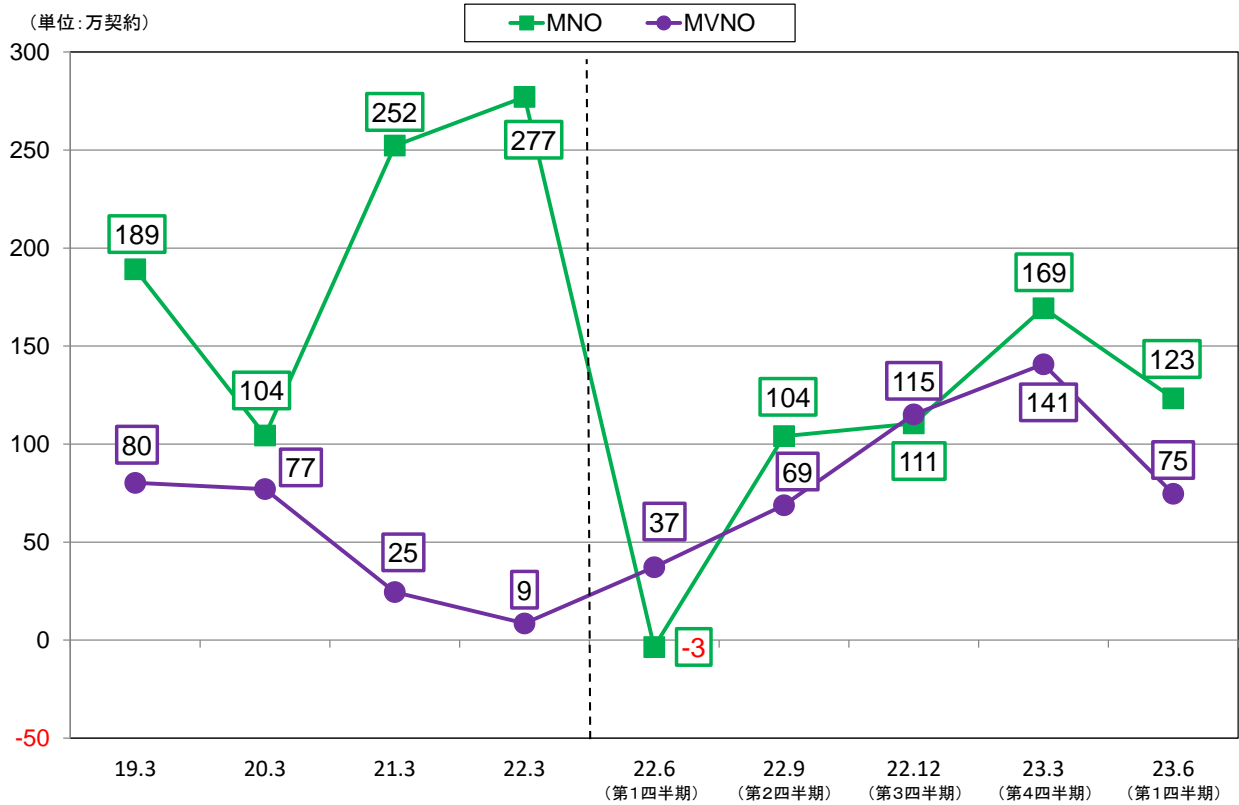
※5：MVNOから回線の提供を受けるMVNO。以下この「(2) MVNO」において同じ。

MVNOサービスの契約数の推移



注：MNOからの報告を基に作成。

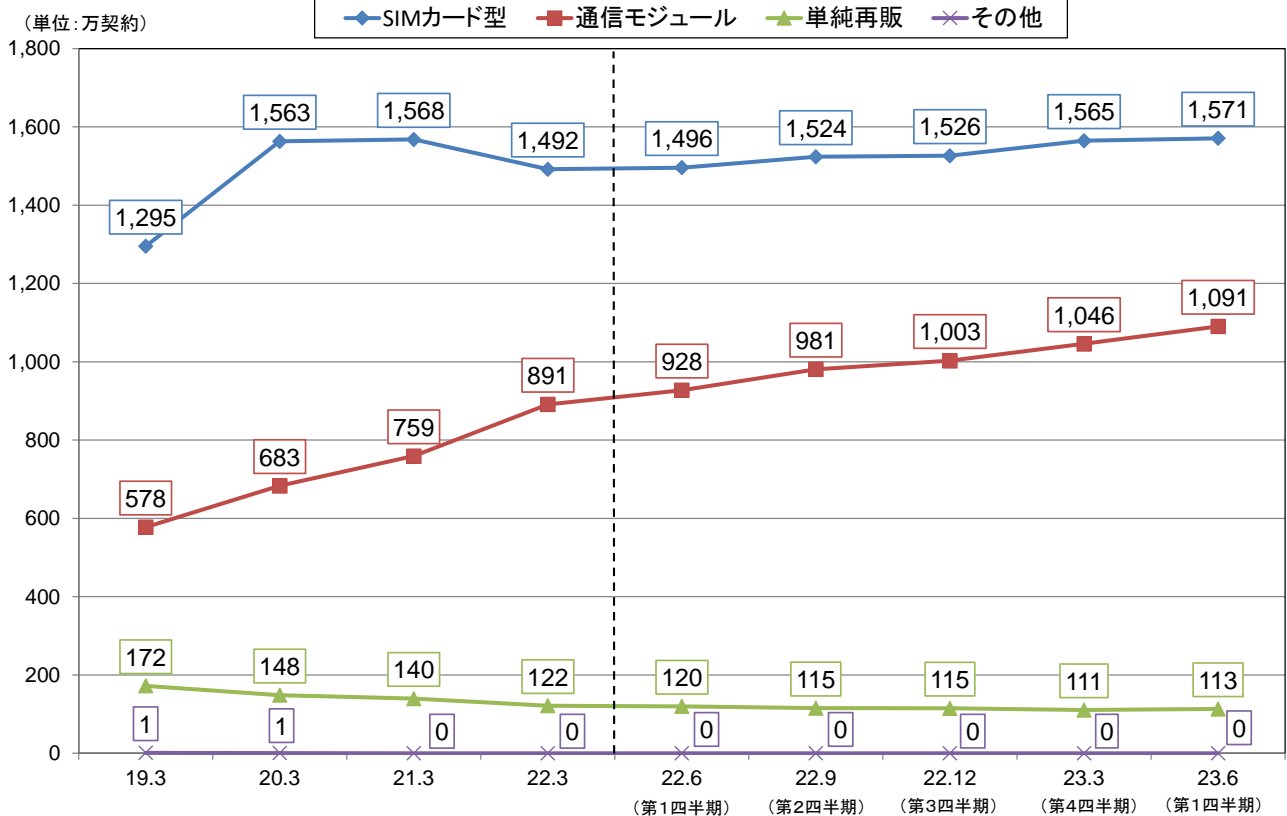
移動系通信の契約数におけるMNO・MVNO別の純増減数の推移



注1: MNOからの報告を基に作成。

注2: MNO全体における契約数の純増減数及びMVNO全体における契約数の純増減数を示している (いずれも対前四半期)。

MVNOサービスの区分別契約数の推移

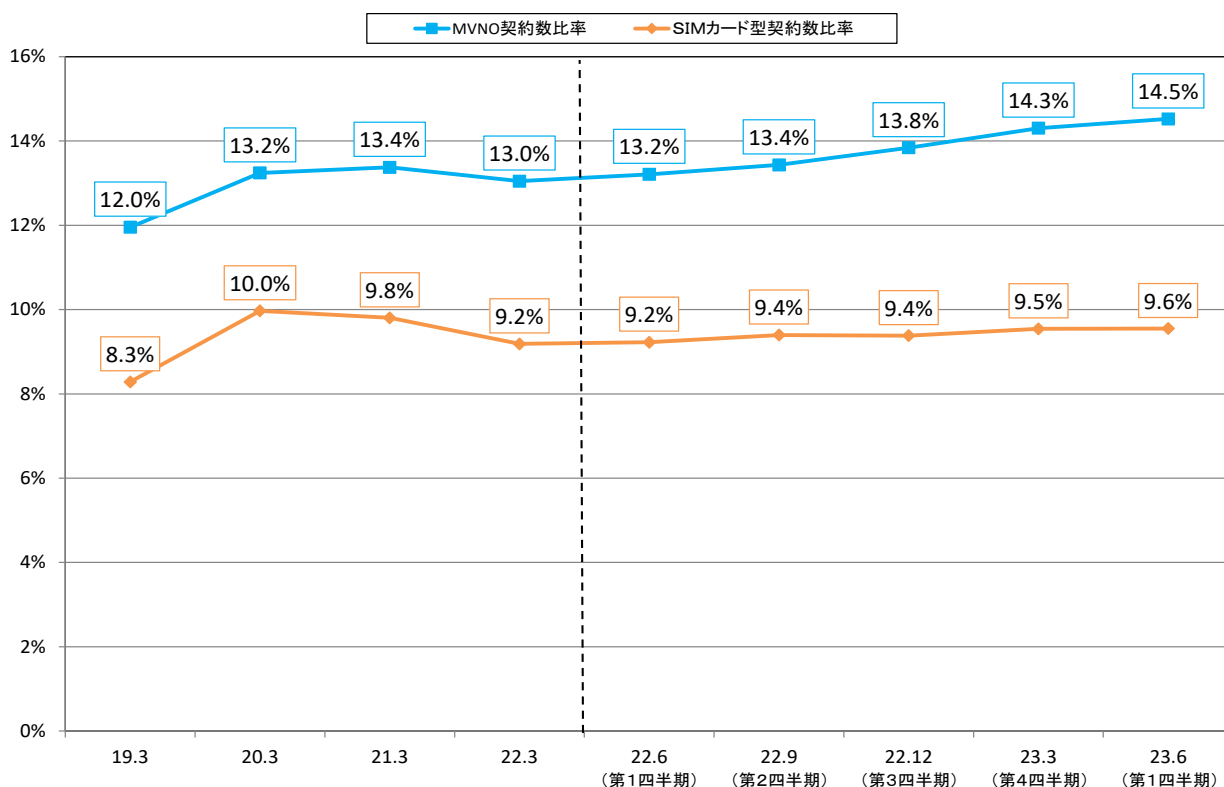


注1: 提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。そのため、「MVNOサービスの契約数の推移」とは合計値が異なる。

注2: 「その他」は、「SIMカード型」、「通信モジュール」及び「単純再販」のいずれの区分にも属さないMVNOサービス。

注3: 事業者報告の修正により、2022年度第2四半期(22.9)以降の契約数について修正を行っている。

MVNOサービスの契約数比率及び MVNOが提供するSIMカード型の契約数比率の推移

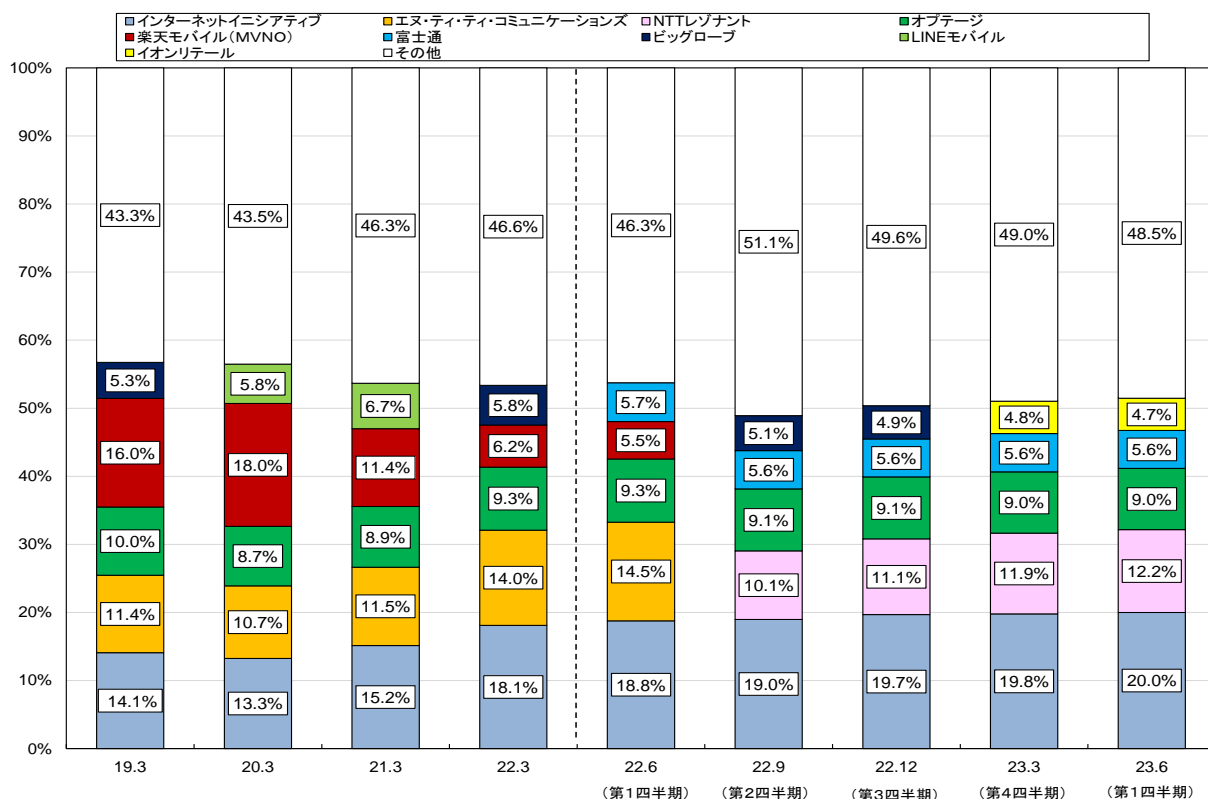


注1：MVNOサービスの契約数比率＝MVNOサービスの契約数／移動系通信の契約数

注2：MVNOが提供するSIMカード型の契約数比率＝MVNOが提供するSIMカード型の契約数／（移動系通信の契約数－MNOが提供する通信モジュールの契約数）

注3：MVNOが提供するSIMカード型の契約数は、提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告数を合計している。

SIMカード型の契約数における事業者別シェアの推移



注1：提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。

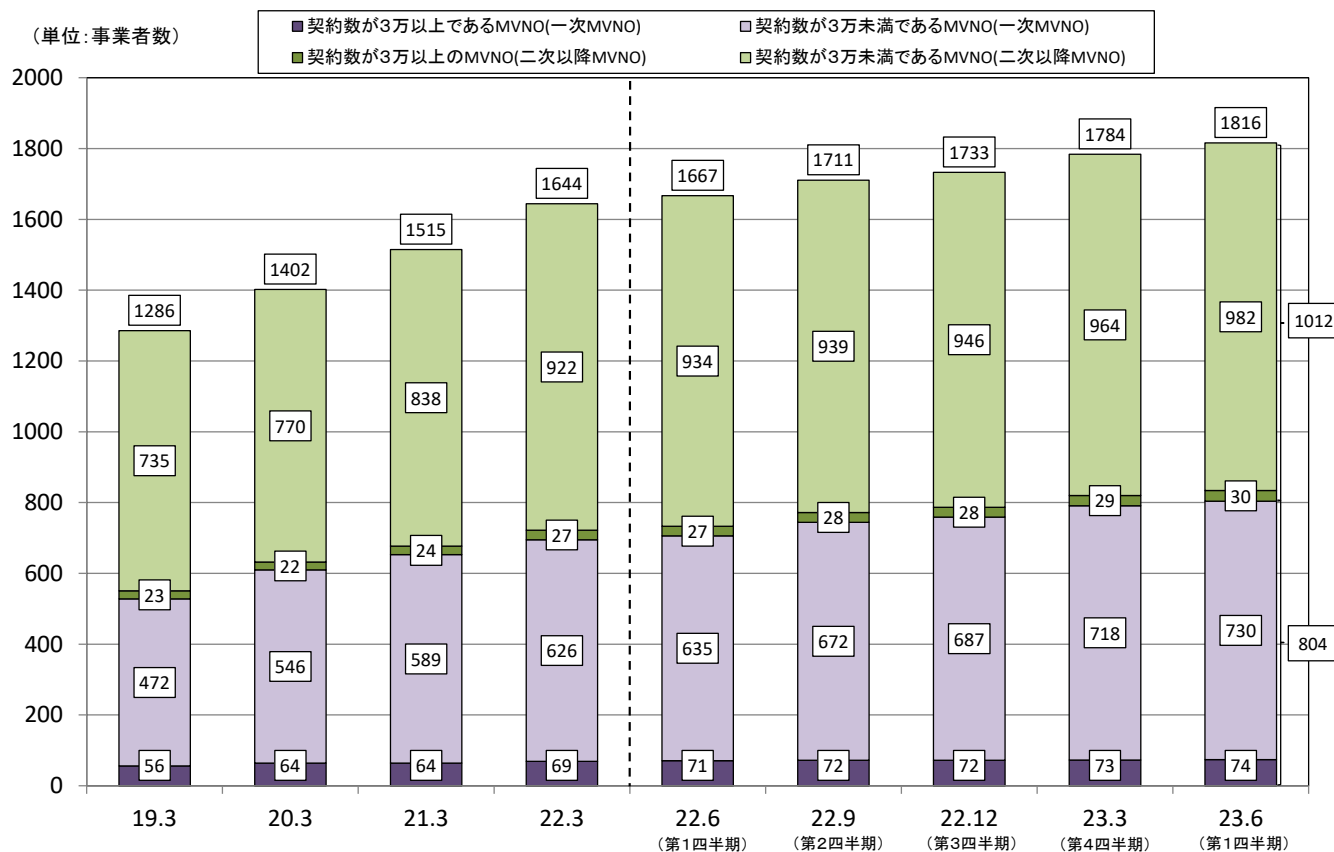
注2：事業者別シェア上位5者を掲載している。

注3：楽天モバイルのシェアは、MVNOとしてのシェア。

注4：NTTコミュニケーションズの消費者向け事業をNTTレゾナントに移管（2022年7月）。

注5：事業者報告の修正により、2022年度第4四半期（23.3）のシェアについて修正を行っている。

MVNOサービスの事業者数の推移



注1: MNO、一次MVNO及び提供している契約数が3万以上の二次以降MVNOからの報告を基に作成。

注2: 契約数3万未満である二次以降のMVNOのみから回線の提供を受けている契約数3万未満のMVNOの事業者数は含まない。

注3: 事業者報告の修正により、2021年度第4四半期(22.3)以降の事業者数について修正を行っている。

【参考】MVNOサービスの区分別事業者数の推移

(単位: 事業者数)

区分	19.3	20.3	21.3	22.3	22.6	22.9	22.12	23.3	23.6
SIMカード型	52 (27)	57 (34)	57 (31)	60 (32)	60 (32)	62 (33)	62 (33)	64 (34)	66 (34)
通信モジュール	21 (15)	23 (16)	24 (17)	29 (22)	30 (23)	31 (24)	31 (24)	31 (24)	31 (24)
単純再販	26 (19)	27 (19)	28 (20)	30 (18)	31 (19)	29 (17)	29 (17)	30 (17)	30 (18)
その他	3 (2)	3 (2)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
再卸	41 (29)	48 (32)	46 (32)	52 (36)	52 (36)	52 (37)	52 (37)	55 (37)	57 (38)

注1: 提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。

注2: 複数のサービスを提供する事業者については、それぞれの区分毎に事業者数を計上している。

注3: 括弧内はそれぞれの区分に係るサービスの提供に当たり、MNOから直接回線の提供を受けるMVNOの事業者数。

注4: 事業者報告の修正により、2021年度第4四半期(22.3)以降の事業者数について修正を行っている。

【参考】MVNOサービス区分「再卸」の契約数の推移

(単位: 万契約)

19.3	20.3	21.3	22.3	22.6	22.9	22.12	23.3	23.6
970	1083	1003	1004	988	1118	1151	1204	1273

注1: 提供している契約数が3万以上のMVNOからの報告を基に作成。

注2: 事業者報告の修正により、2022年度第4四半期(23.3)の事業者数について修正を行っている。

2 固定系通信

(1) データ系通信

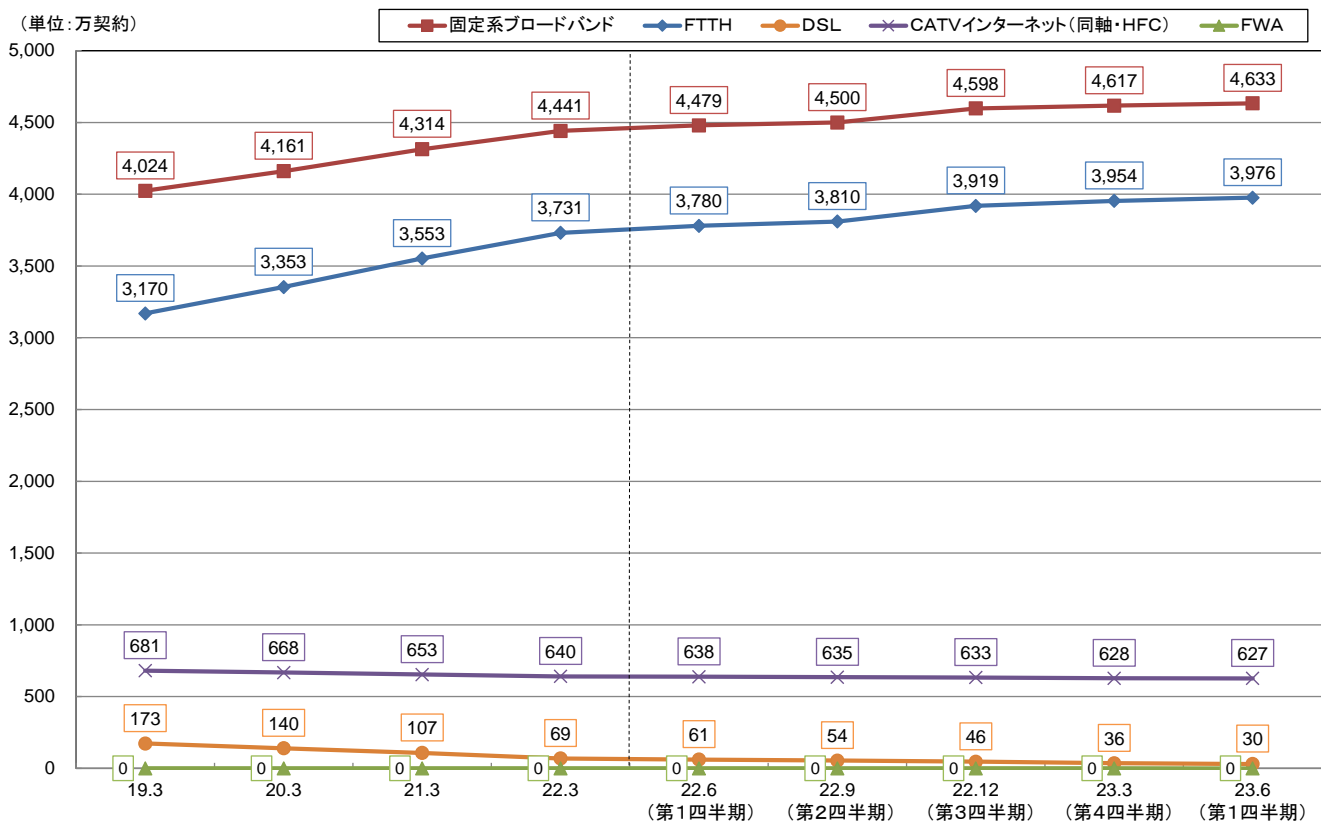
① 固定系ブロードバンド

- 固定系ブロードバンドサービス^{※1}の契約数は4,633万(前期比+0.4%、前年同期比+3.4%)となっている。
- 固定系ブロードバンドの契約数におけるNTT東西のシェアは、14.5%(前期比▲0.3ポイント、前年同期比▲1.4ポイント、卸電気通信役務^{※2}の提供に係るものを含めると51.0%)となっている。

※1：FTTH、DSL、CATVインターネット(同軸・HFC)及びFWAの合計。

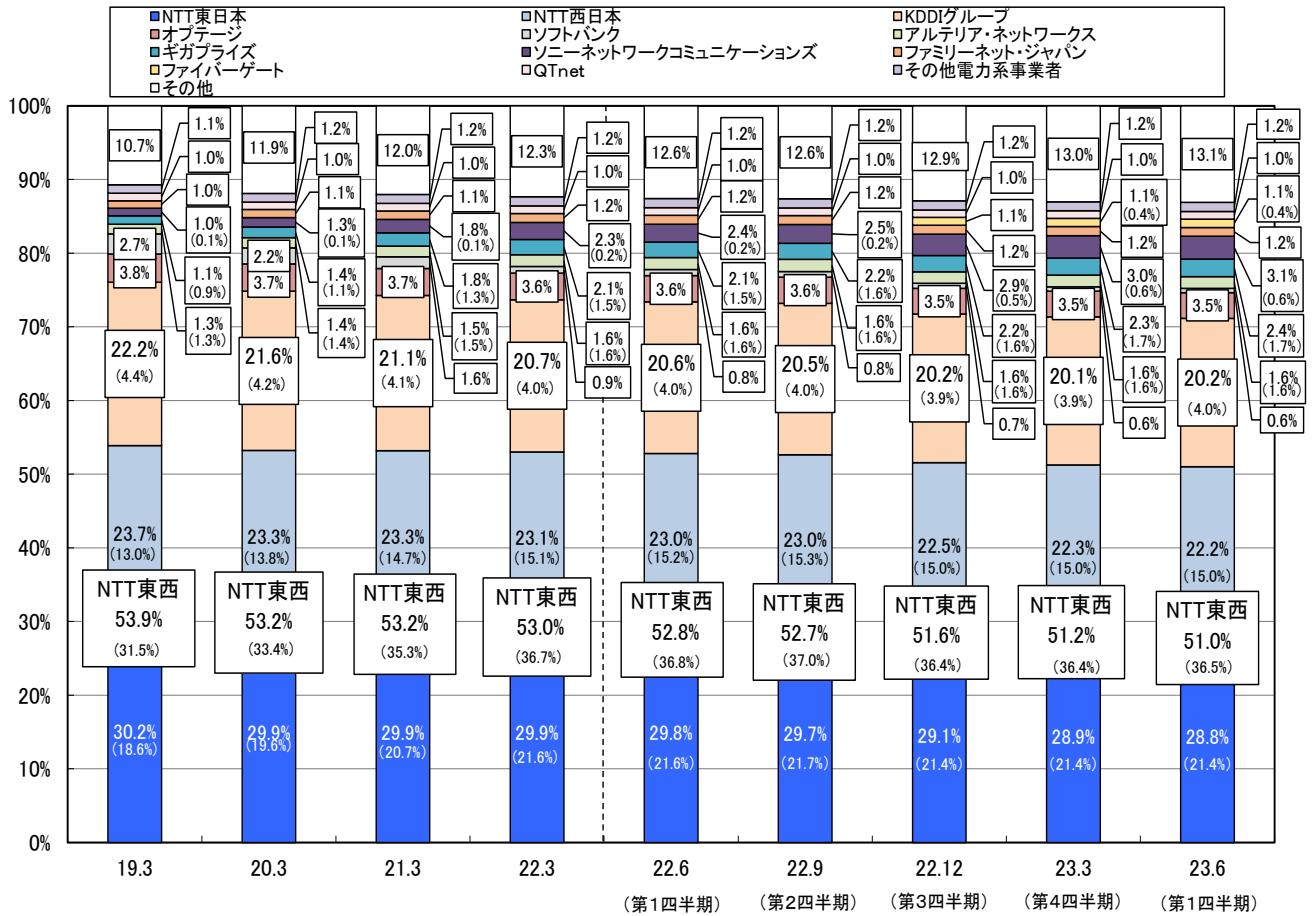
※2：電気通信事業者の電気通信事業の用に供する電気通信役務。

固定系ブロードバンドサービスの契約数の推移



注：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期(20.3)以降の契約数について修正を行っている。

固定系ブロードバンドサービスの契約数における事業者別シェアの推移 (設備設置事業者別)



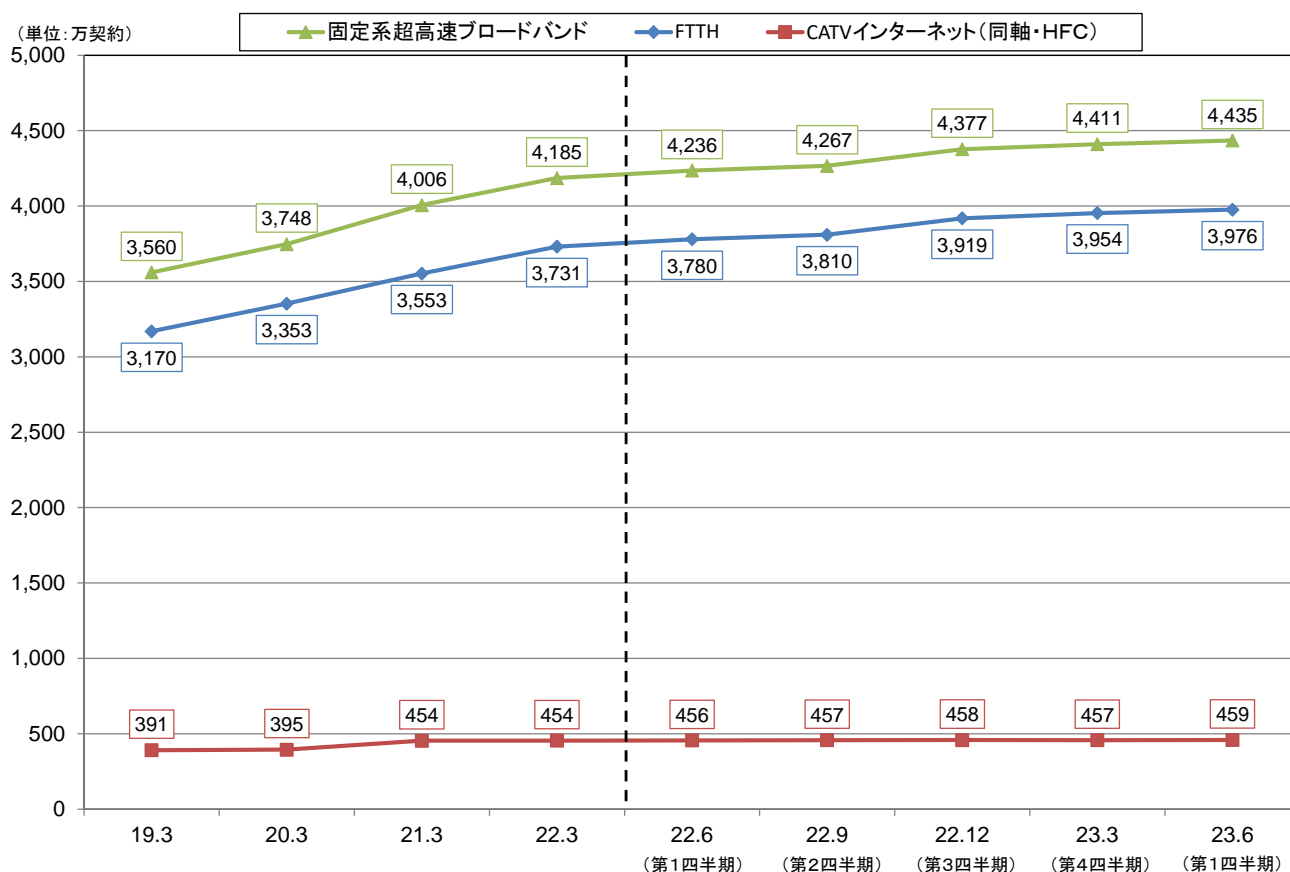
- 注1：この事業者別シェアはFTTH、DSL及びCATVインターネット（同軸・HFC）を対象としており、FWAを含んでいない。
- 注2：「KDDIグループ」には、KDDI、沖縄セルラー、中部テレコミュニケーション、OTNet及びJ:COMグループが含まれる。特段の記載がない限り、以下この「(1) データ系通信」の①及び③において同じ。
- 注3：「その他電力系事業者」には、STNet及びエネルギー・コミュニケーションズが含まれる。特段の記載がない限り、以下この「(1) データ系通信」の①及び③において同じ。
- 注4：括弧内は、卸電気通信役務の提供に係るシェア。
- 注5：ケイ・オプティコムはオプテージに社名変更（2019年度第1四半期）。以下同じ。
- 注6：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期（20.3）以降のシェアについて修正を行っている。

② 固定系超高速ブロードバンド (①の内数)

- 固定系超高速ブロードバンドサービス*の契約数は4,435万(前期比+0.5%、前年同期比+4.7%)となっている。このうち、FTTHは3,976万(前期比+0.6%、前年同期比+5.2%)、CATVインターネット(同軸・HFC)は459万(前期比+0.3%、前年同期比+0.6%)となっている。
- FTTHの契約数は全ての都道府県で増加し、CATVインターネット(同軸・HFC)の契約数は29県で減少している(対前期比)。

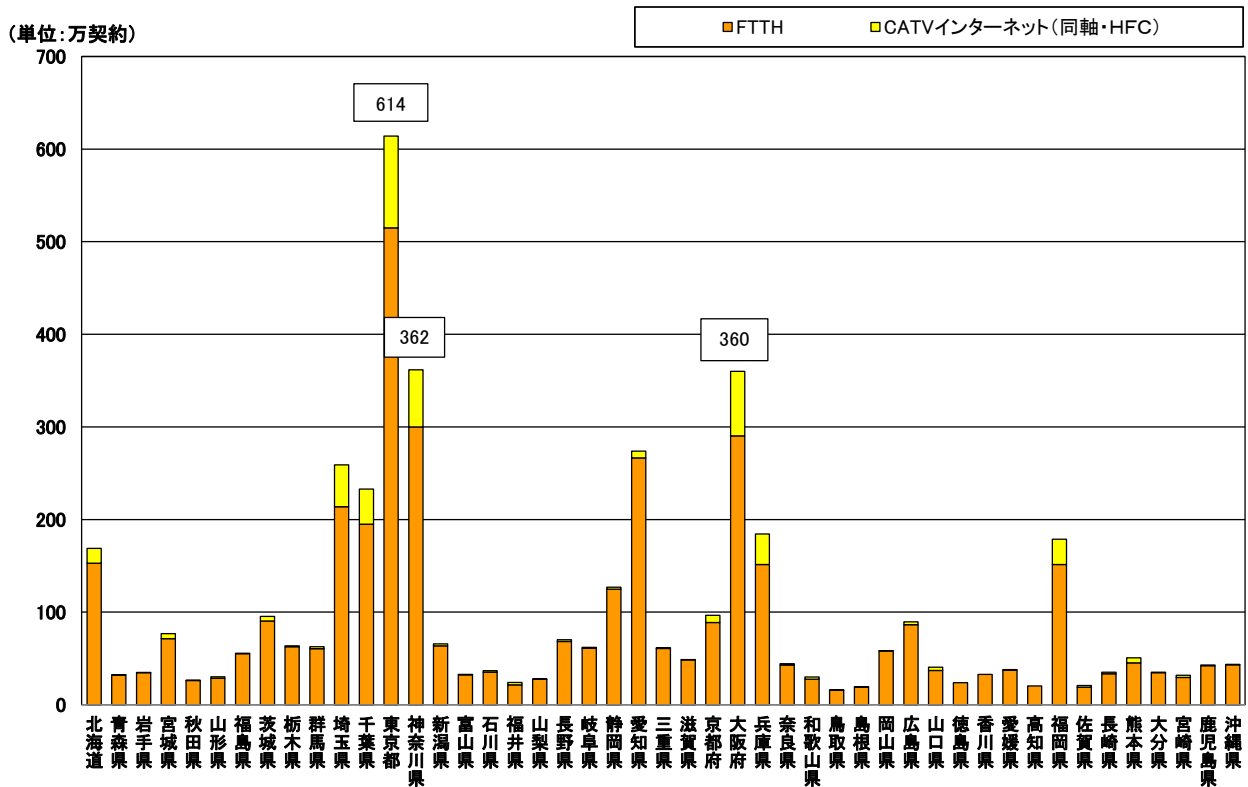
※ FTTH及びCATVインターネット(同軸・HFC)の合計。ただし、CATVインターネットについては、通信速度下り30Mbps以上のものに限る。以下この「② 固定系超高速ブロードバンド」において同じ。

固定系超高速ブロードバンドサービスの契約数の推移

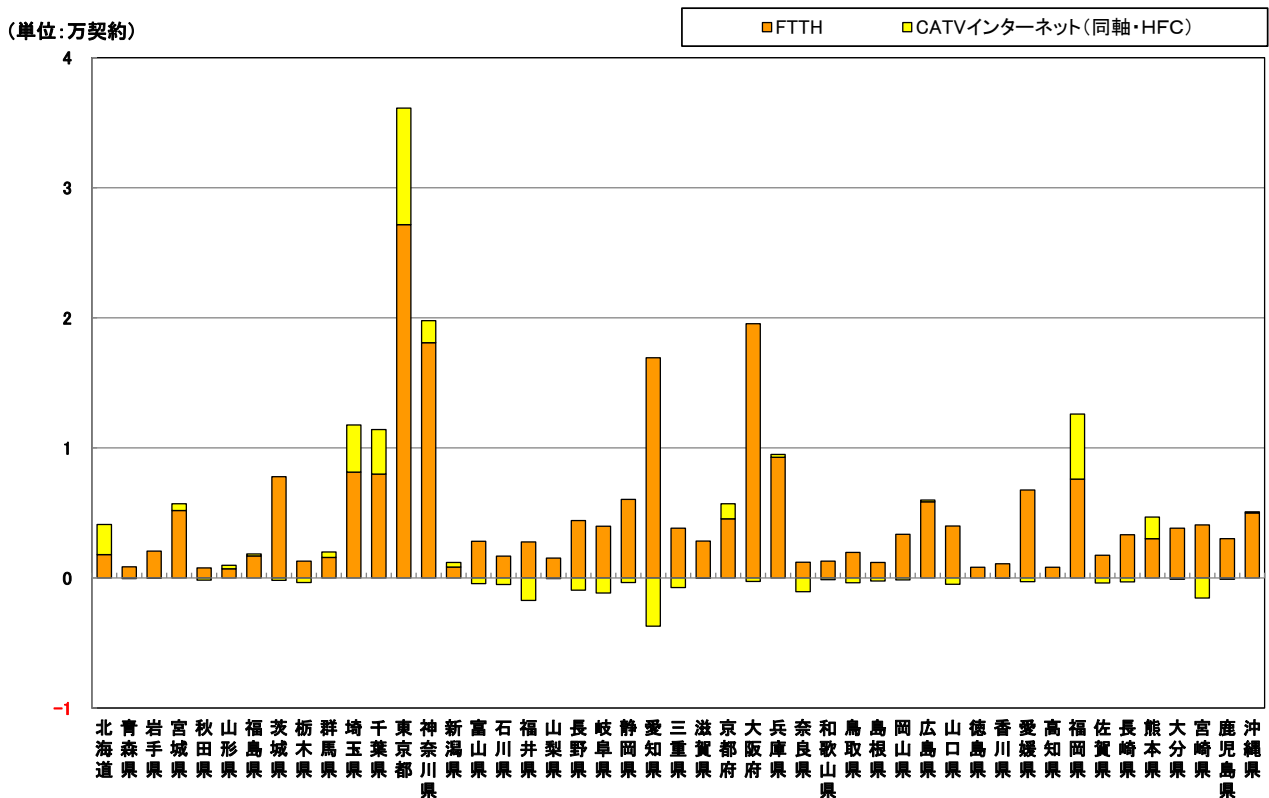


注: 事業者報告の修正により、2019年度第4四半期(20.3)以降の契約数について修正を行っている。

固定系超高速ブロードバンドサービスの都道府県別の契約数



固定系超高速ブロードバンドの都道府県別の純増減数 (対前期比)



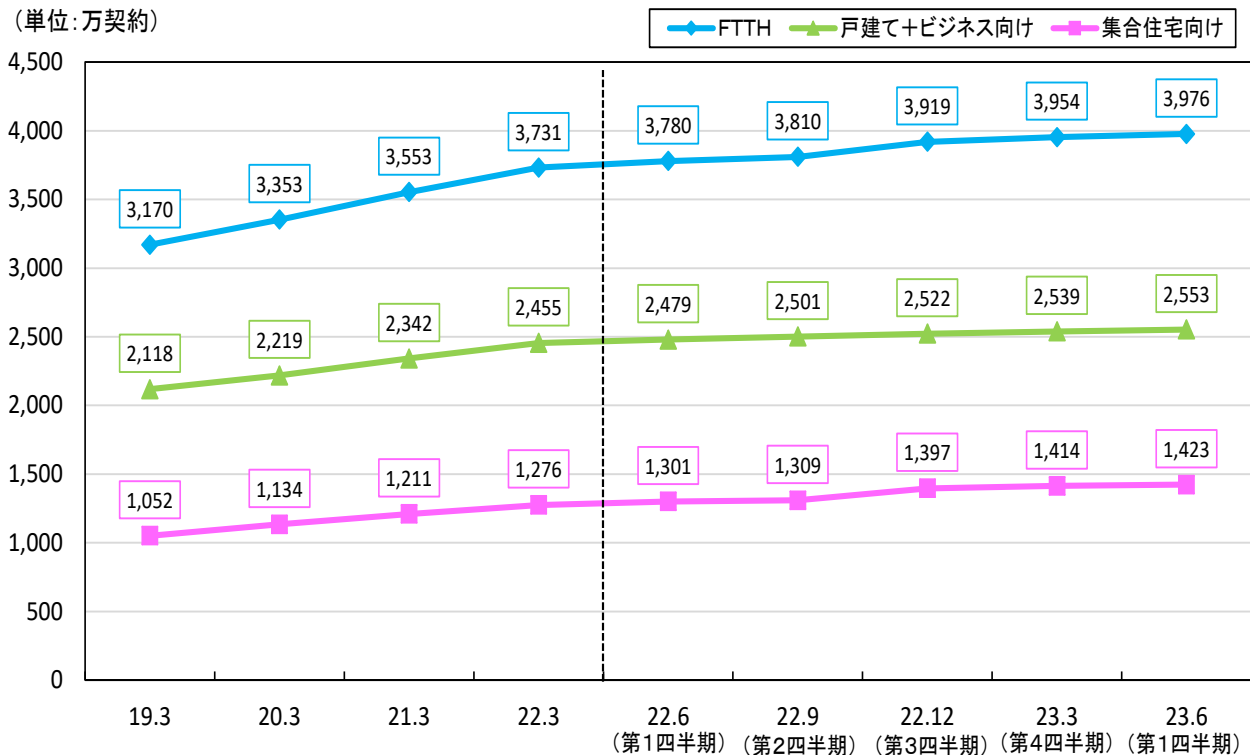
③ FTTH (②の内数)

- FTTHの契約数は3,976万(前期比+0.6%、前年同期比+5.2%)となっている。
- FTTHの契約数における事業者別シェアは、設備設置事業者別(卸電気通信役務の提供に係るものを含む。)を見ると、NTT東西が59.3%(前期比▲0.3ポイント、前年同期比▲2.6ポイント)、KDDIグループが10.6%(前期比±0ポイント、前年同期比▲0.3ポイント)、オプテージが4.1%(前期比±0ポイント、前年同期比▲0.2ポイント)となっている。
- FTTHの契約数における事業者別シェアは、サービス提供主体別^{※1}にみると、NTTドコモが18.7%(前期比▲0.2ポイント、前年同期比▲0.6ポイント)、NTT東西が16.8%(前期比▲0.3ポイント、前年同期比▲1.5ポイント)、ソフトバンクが11.5%(前期比±0ポイント、前年同期比▲0.2ポイント)、KDDIグループ^{※2}が9.3%(前期比±0ポイント、前年同期比▲0.2ポイント)となっている。
- FTTHの契約数のうち、卸電気通信役務を利用して提供される契約数は2,109万(53.0%、前期比+0.2ポイント、前年同期比▲0.5ポイント)となっている。このうち、NTT東西の卸電気通信役務(サービス卸)を利用して提供される契約数は1,690万であり、FTTHの契約数に占める比率は42.5%(前期比±0ポイント、前年同期比▲1.2ポイント)となっている。

※1 卸電気通信役務の提供を受け、最終利用者にFTTHサービスの提供を行う事業者を含む。

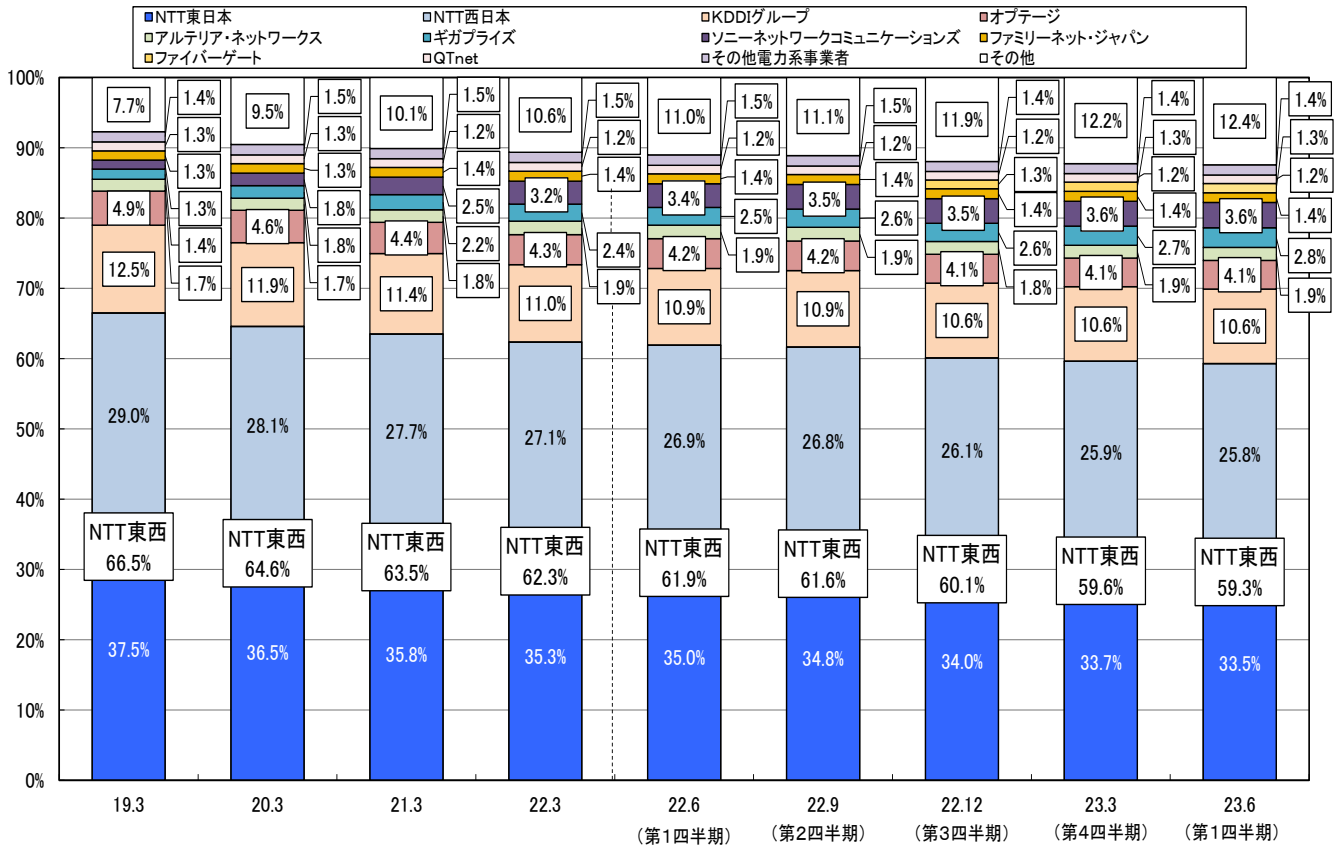
※2 「FTTHの契約数における事業者別シェアの推移(サービス提供主体別)」において「KDDIグループ」としている事業者が含まれる。

FTTHの契約数の推移



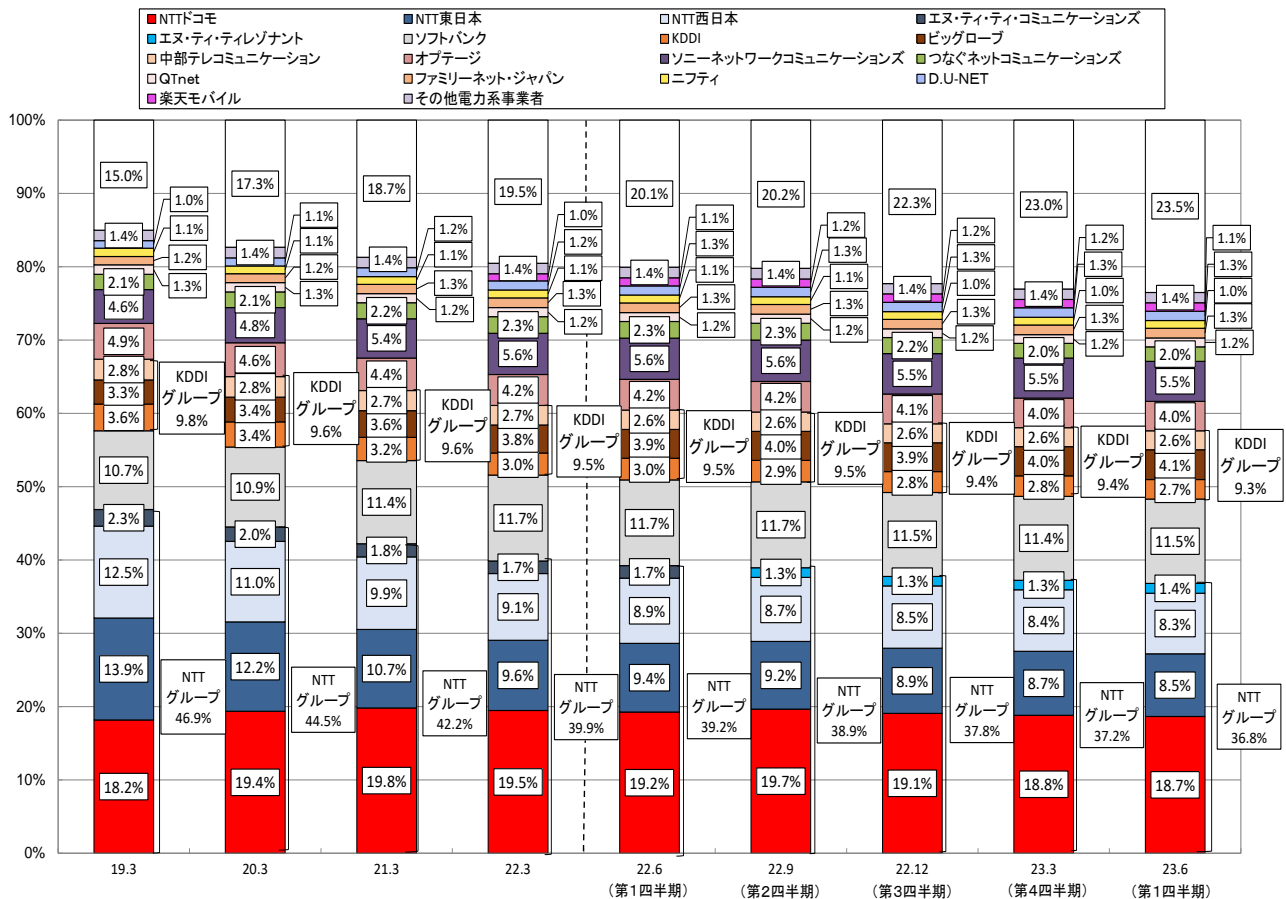
注：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期(20.3)以降の契約数について修正を行っている。

F T T Hの契約数における事業者別シェアの推移（設備設置事業者別）



注：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期（20.3）以降のシェアについて修正を行っている。

F T T Hの契約数における事業者別シェアの推移（サービス提供主体別）

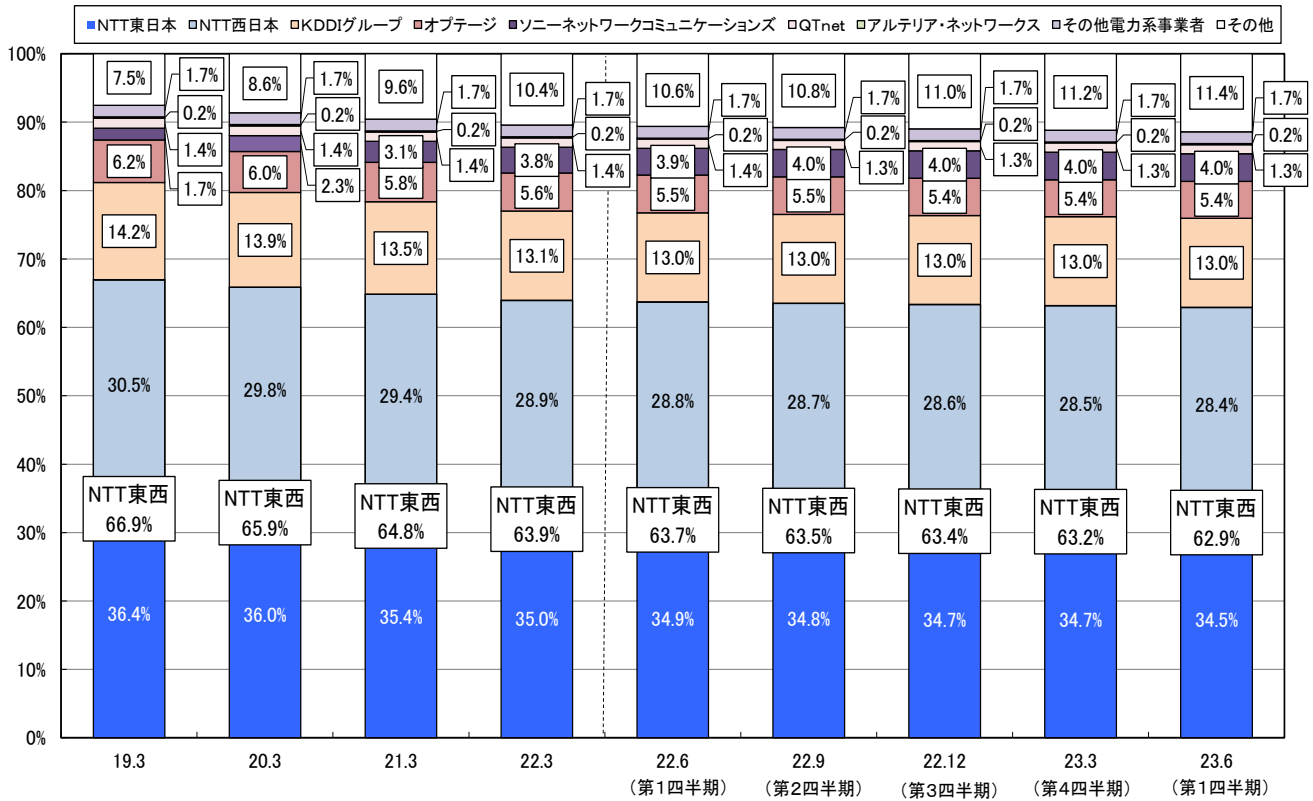


注1：事業者別シェア1%以上の事業者を掲載している。

注2：卸電気通信役務の提供を受ける事業者については、再卸契約数を除いてカウント。

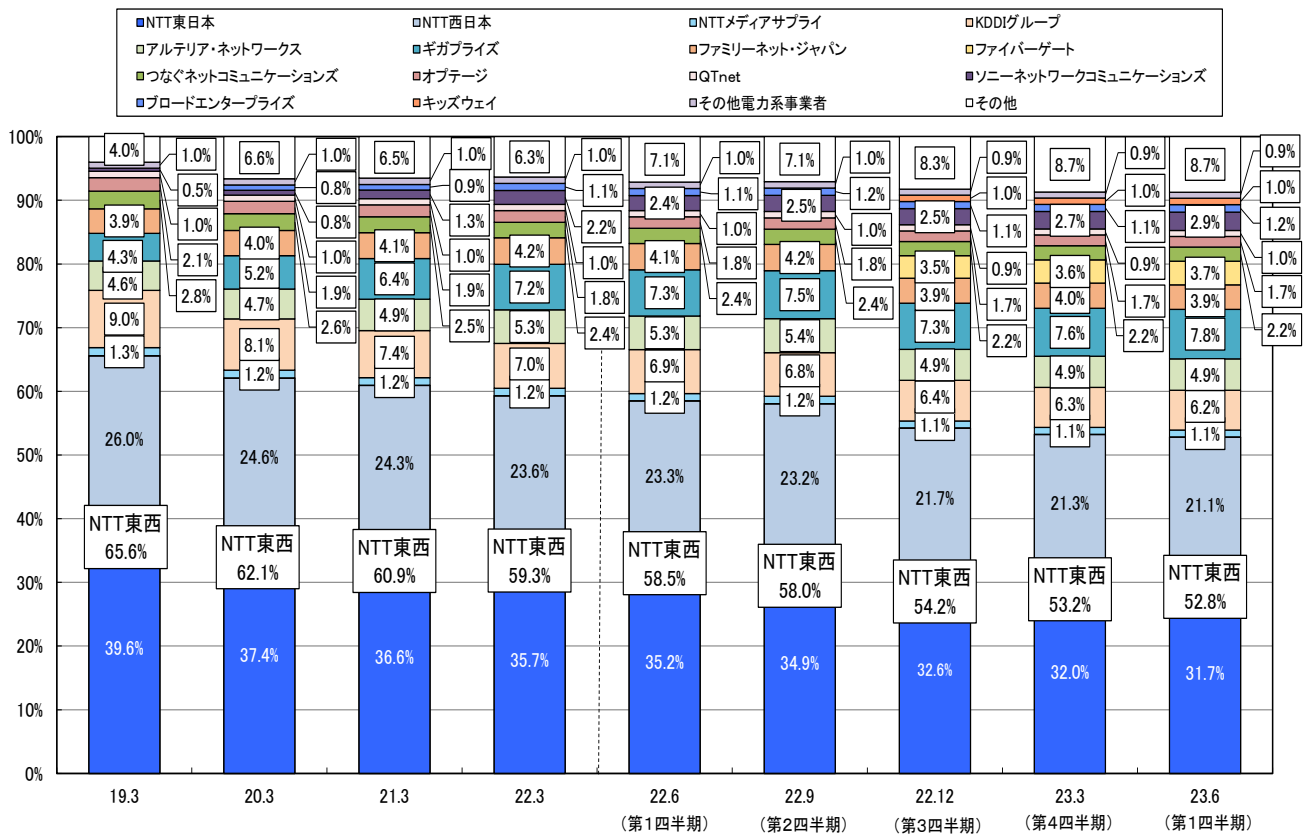
注3：事業者報告の修正等により、2018年度第4四半期（19.3）以降のシェアについて修正を行っている。

F T T Hの契約数における事業者別シェアの推移（設備設置事業者別） （戸建て+ビジネス向け）



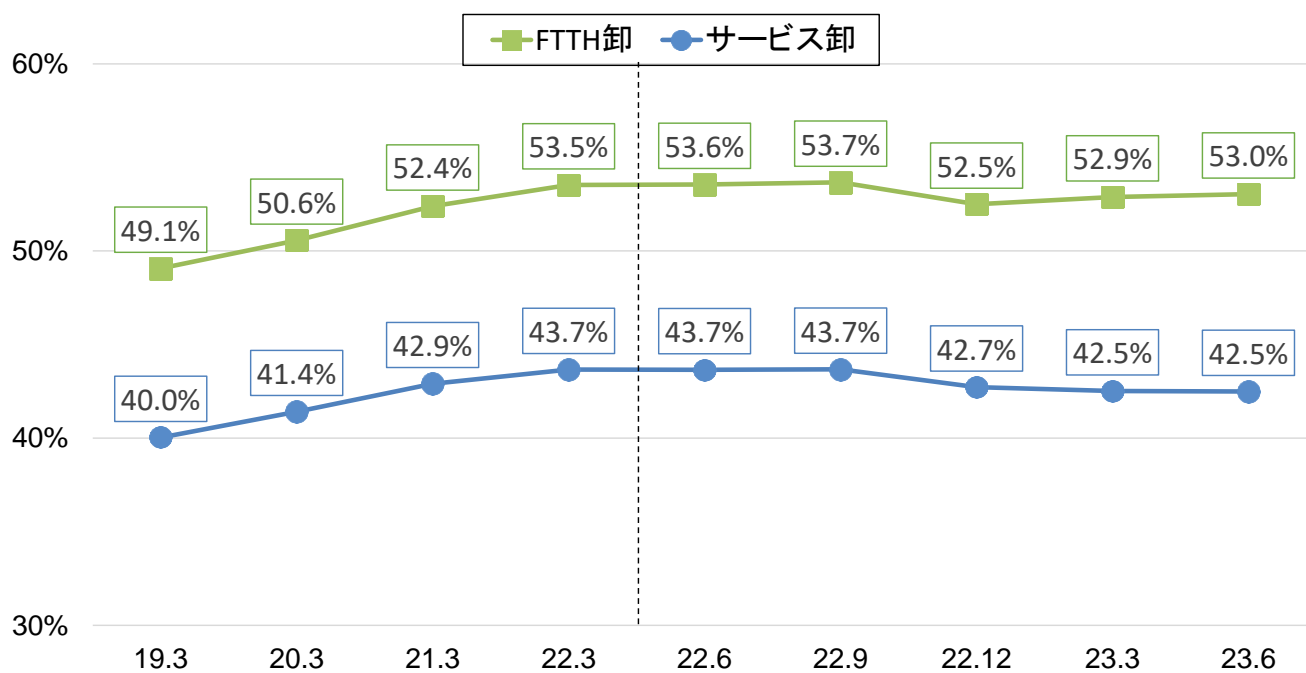
注：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期（20.3）以降のシェアについて修正を行っている。

F T T Hの契約数における事業者別シェアの推移（設備設置事業者別）（集合住宅向け）



注：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期（20.3）以降のシェアについて修正を行っている。

F T T Hの契約数における卸契約数等の割合の推移



注1：「F T T H卸」とは、卸電気通信役務を利用して提供されるF T T Hサービス。

注2：「サービス卸」とは、N T T東西の提供するF T T Hの卸売サービス。

注3：事業者報告の修正により、2019年度第4四半期（20.3）以降の契約数について修正を行っている。

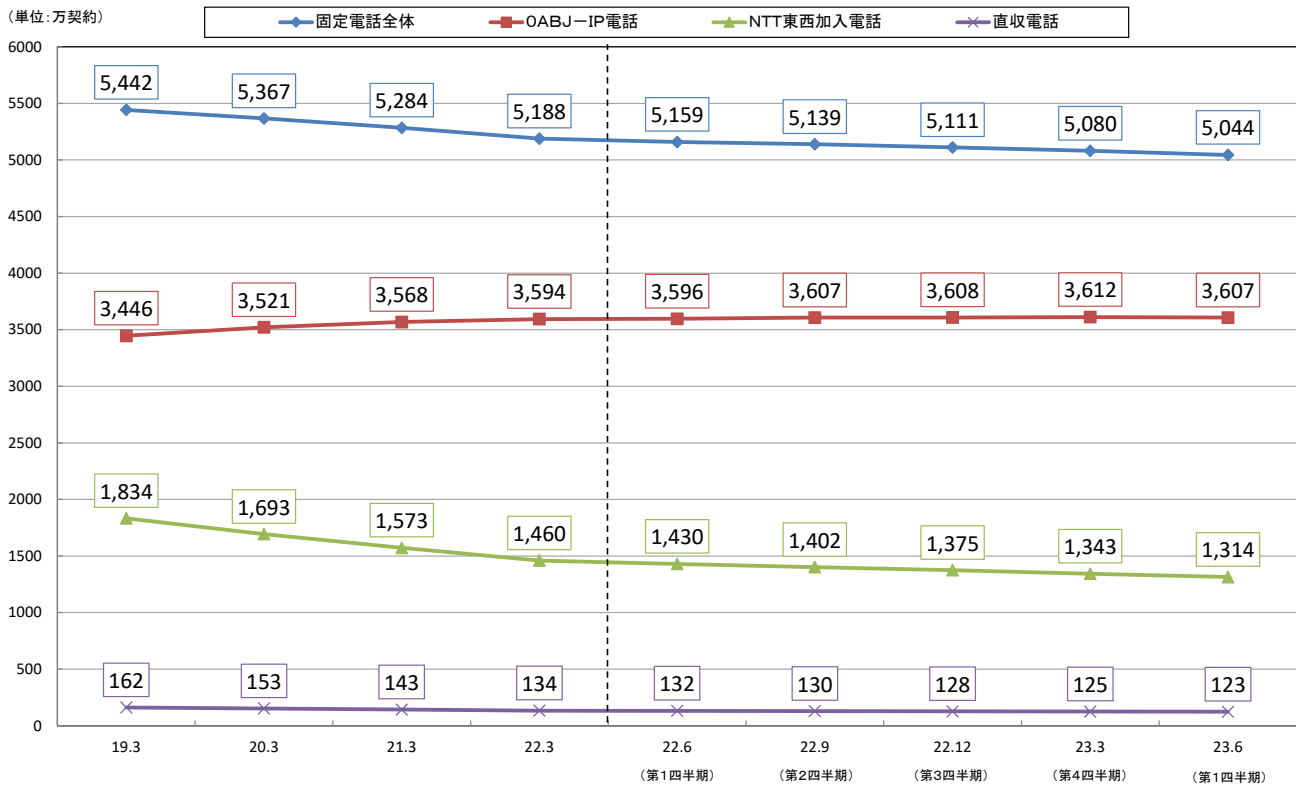
(2) 音声系通信

① 固定電話

- **固定電話***の契約数は5,044万（前期比▲0.7%、前年同期比▲2.2%）となっている。このうち、**OABJ-IP電話**は3,607万（前期比▲0.1%、前年同期比+0.3%）、**NTT東西加入電話**は1,314万（前期比▲2.2%、前年同期比▲8.1%）となっている。
- 固定電話の契約数における事業者別シェアは、**NTT東西**（NTT東西加入電話及びNTT東西OABJ-IP電話の合計）が63.2%（前期比▲0.2ポイント、前年同期比▲1.0ポイント）、**KDDIグループ**が22.2%（前期比±0ポイント、前年同期比+0.1ポイント）となっている。

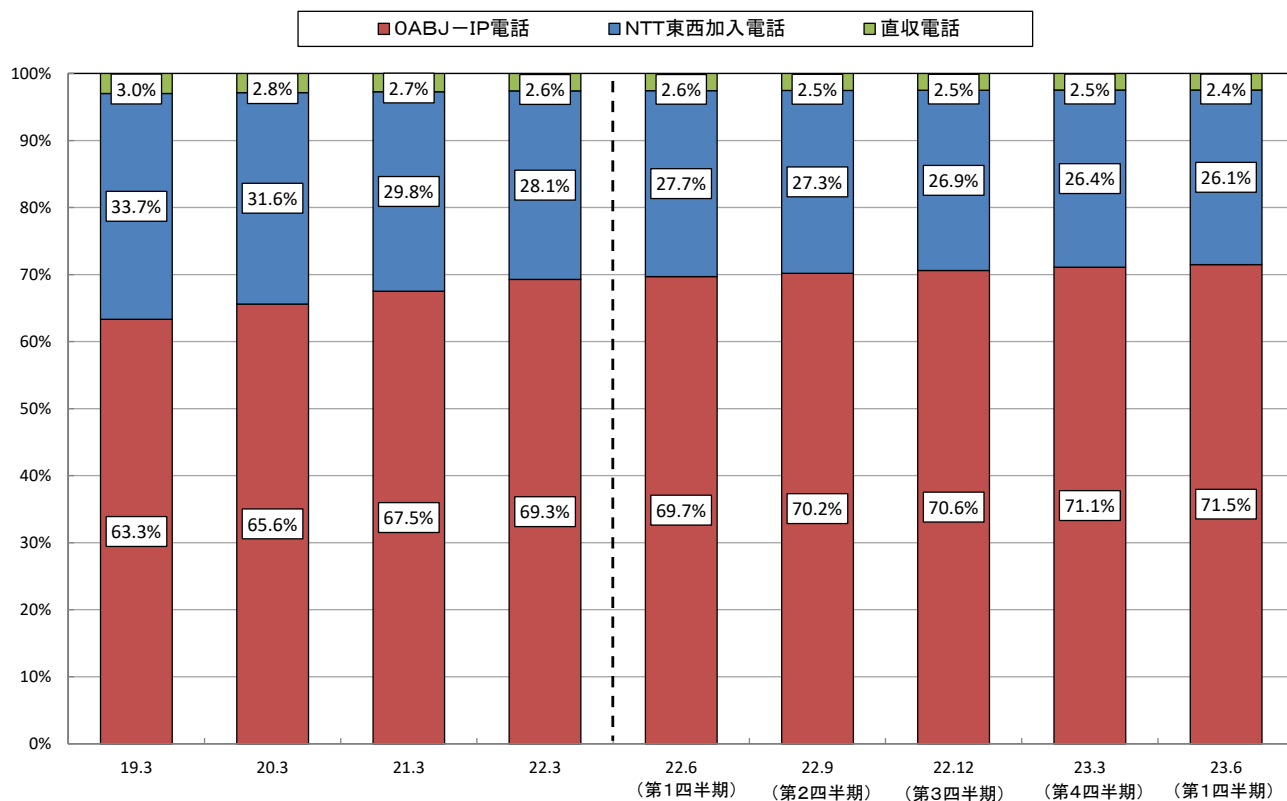
※：NTT東西加入電話（OABJ-IP電話を除く。ISDNを含む。）、直収電話（直加入、新型直収、直収ISDNの合計）及びOABJ-IP電話を指す。

固定電話の契約数の推移

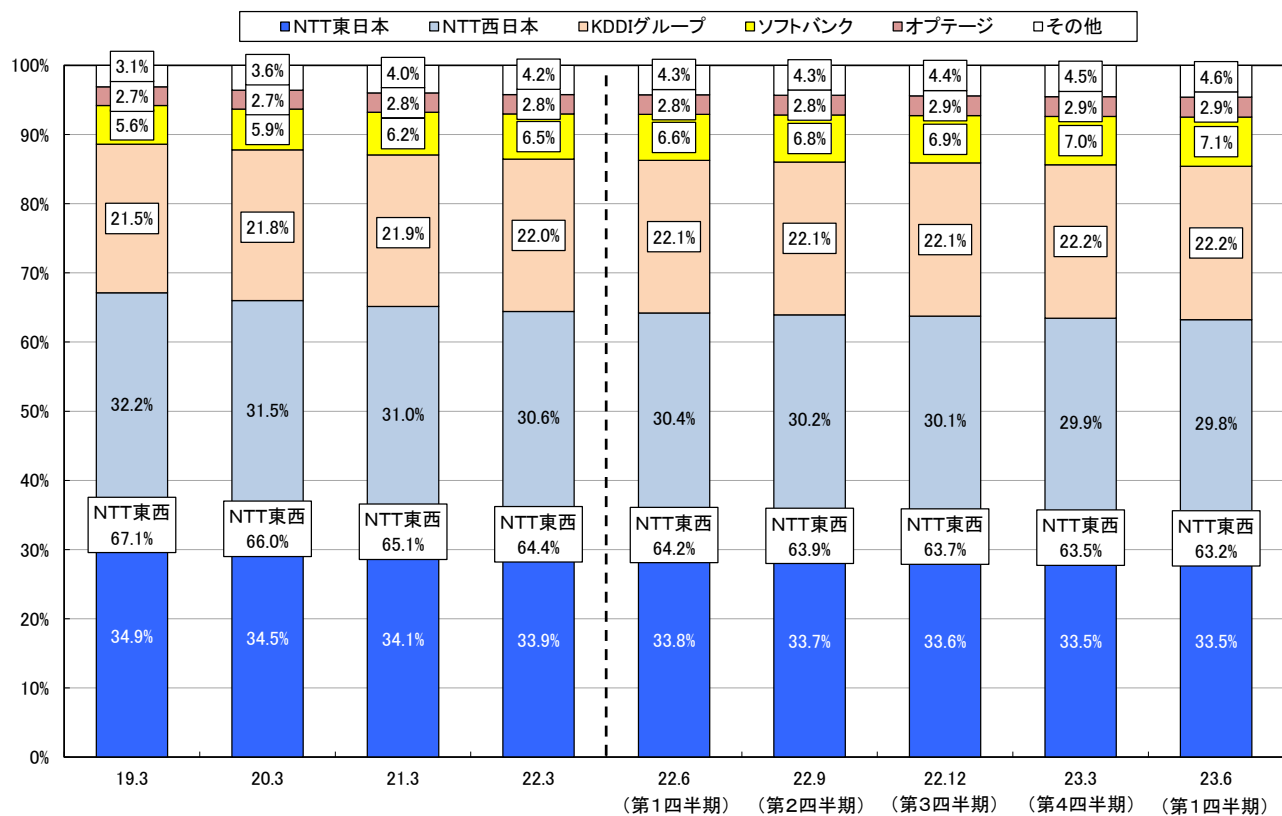


注：「OABJ-IP電話」は、利用番号数をもって契約数とみなしている。なお、OABJ-IP電話はNTT東西加入電話等との代替性が高いため固定電話に加えているが、IP電話としてもP.18以降に再掲している。

固定電話の契約数におけるサービス別内訳の推移



固定電話の契約数における事業者別シェアの推移



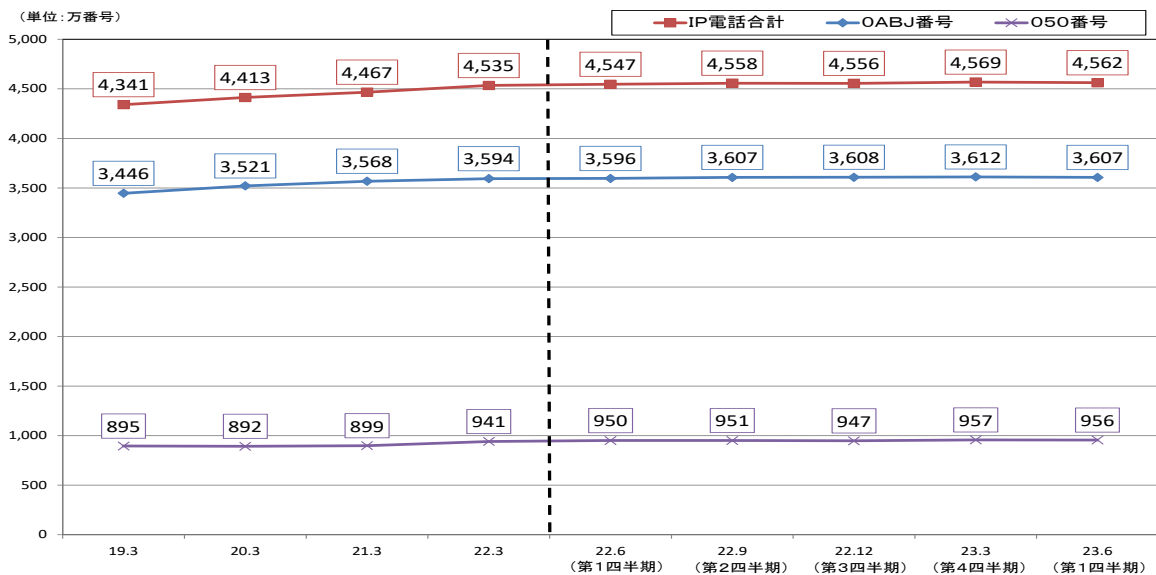
注1：「NTT東西」は、それぞれ加入電話（ISDNを含む）、OABJ-IP電話の合計を示す。

注2：「KDDIグループ」には、KDDI、中部テレコミュニケーション及びJ：COMグループ（2020年度第3四半期まで）が含まれる。以下、特段の記載がない限り「（2）音声系通信」において同じ。

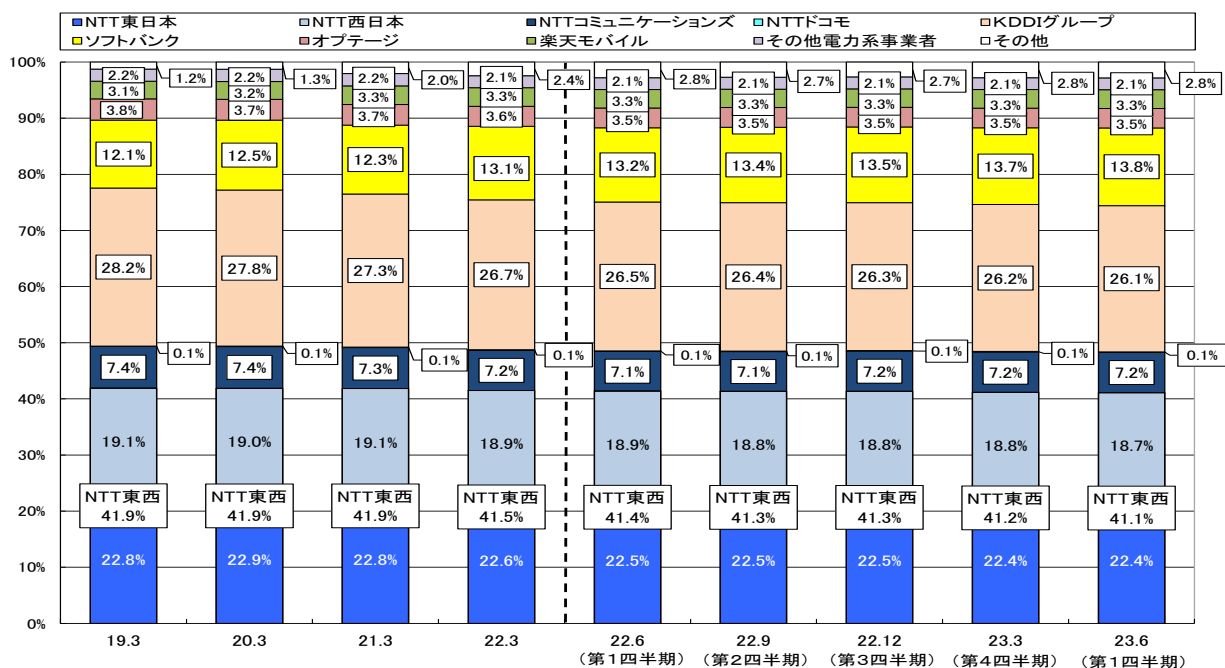
② IP電話

- IP電話の利用番号数は4,562万(前期比▲0.1%、前年同期比+0.3%)であり、このうち、OABJ番号の利用数は3,607万(前期比▲0.1%、前年同期比+0.3%)、O50番号の利用数は956万(前期比▲0.2%、前年同期比+0.6%)となっている。
- OABJ番号の利用数における事業者別シェアは、NTT東西が52.0%(前期比▲0.1ポイント、前年同期比▲0.4ポイント)、KDDIグループが31.0%(前期比▲0.2ポイント、前年同期比▲0.6ポイント)となっている。
- O50番号の利用数における事業者別シェアは、ソフトバンクが41.3%(前期比±0ポイント、前年同期比+0.3ポイント)、NTTコミュニケーションズが22.5%(前期比、前年同期比ともに▲0.1ポイント)となっている。

IP電話の利用番号数の推移

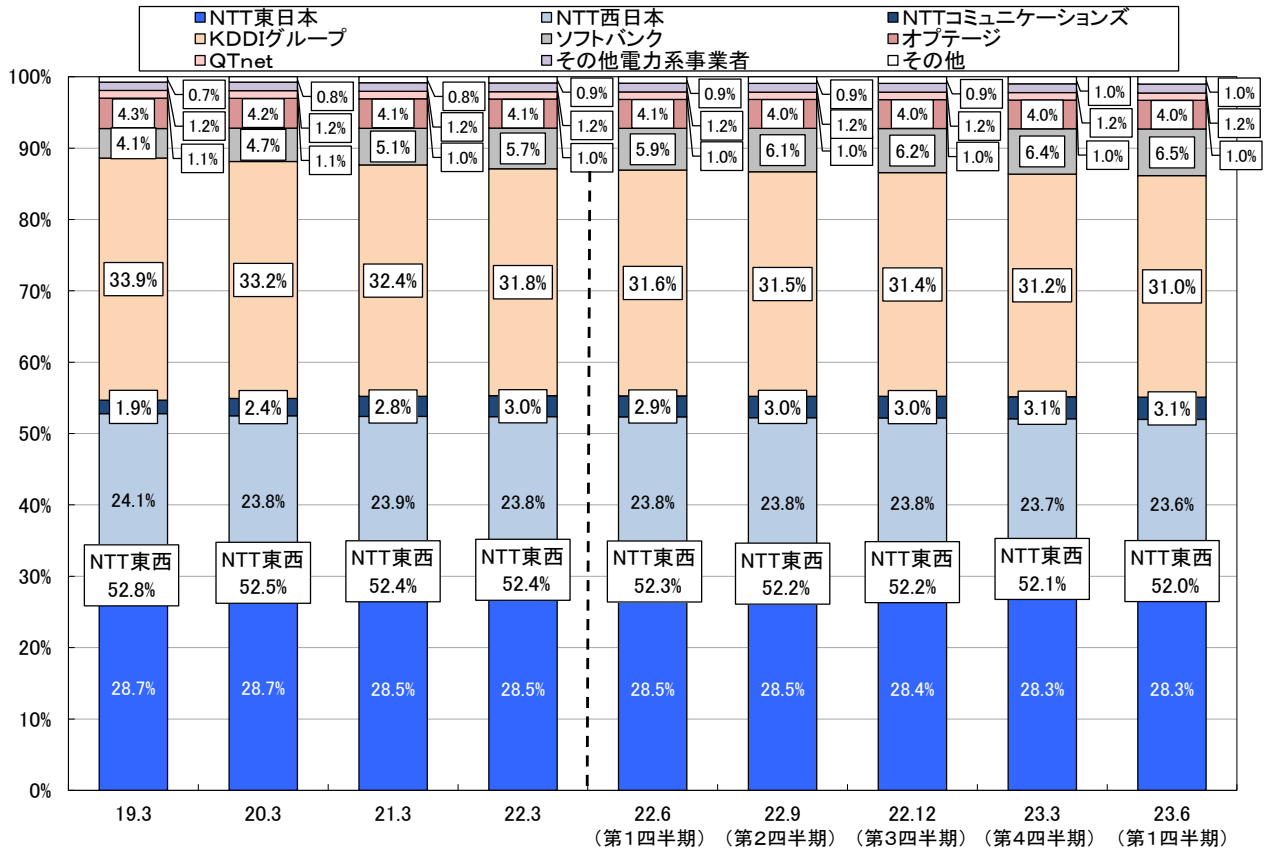


IP電話の利用番号数における事業者別シェアの推移(全体)

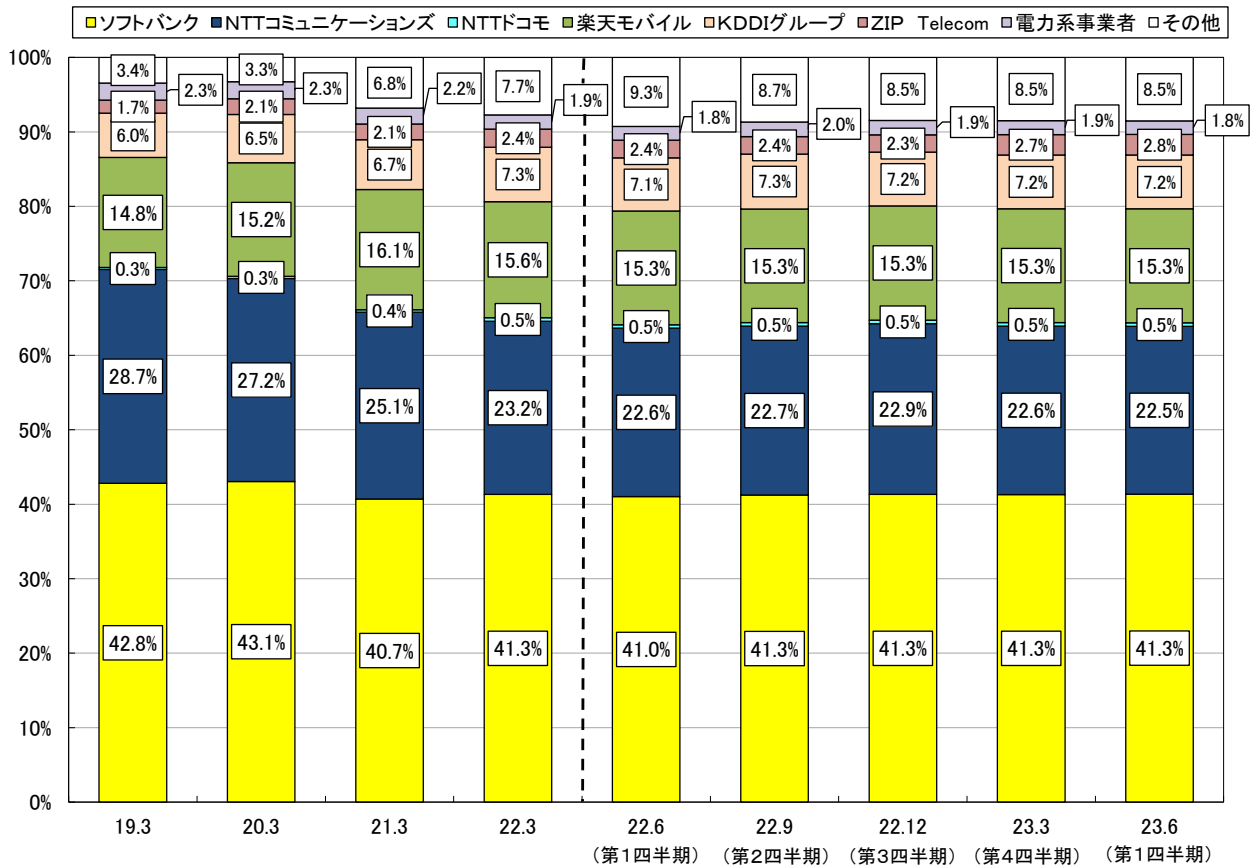


注：楽天モバイルについては、2019年度第1四半期までは楽天コミュニケーションズのシェア。以下同じ。

I P電話の利用番号数における事業者別シェアの推移（OABJ番号）



I P電話の利用番号数における事業者別シェアの推移（O50番号）



注：「KDDIグループ」には、KDDI、中部テレコミュニケーションが含まれる。